

**Panasonic**<sup>®</sup>

取扱説明書

デジタルサイネージソリューション NMstage

NMデータゲートウェイソフトウェア 1.0

品番 **AF-NMGW100**

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。  
お読みになったあとは、大切に保管し、必要な時にお読みください。

# はじめに

デジタルサイネージソリューション NMstage(以下、本システム)は、コンテンツやスケジュールをネットワーク経由でプレーヤー端末に配信し、プラズマディスプレイ(以下、PDP)等の表示装置にて放映するシステムです。管理サーバー、操作端末、プレーヤー端末等の専用ソフトウェアをパソコンにインストールし、ネットワーク接続することによりシステムを構築します。

NMデータゲートウェイソフトウェアは、管理サーバー上で運用し、本システム以外(以下、外部装置とします)からのコンテンツやテキストベースの情報を内部のフォーマットに変換してプレーヤー端末に転送、表示します。また、プレーヤー端末の割込み等の制御を行うなど機能連携ができます。

## パッケージの内容

ライセンス証書	.....	1 枚
取扱説明書	.....	1 部

注意！！

NMデータゲートウェイソフトウェアをご利用頂くには、NM-SVR V3.0R05 の管理サーバーソフト・NM-OPE V3.0R05 のオペレーションソフト・NM-PLR V3.0R05 のプレーヤーソフトがご使用の機器に導入されている必要があります。

運用に際しては、データ変換機能のライセンスの登録が必要になります。また、データベースから情報を取り込むには、続けて DB 連携のライセンスを登録してください。

ご不明な点は、当該ソフトウェアの購入先にお問い合わせください。

## 関連ソフトウェア及びドキュメント

本システムの関連ソフトウェア及びドキュメントは以下のとおりです。

- 管理サーバーソフト
  - 取扱説明書(操作編)
  - 取扱説明書(インストール編)

## 商標

- Microsoft、Windows、Windows Media、PowerPoint、PowerPoint Viewer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- Intel、Pentium は、米国 Intel Corporation の商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe Reader、Flash は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。
- 本製品に含まれているソフトウェアの譲渡、コピー、逆アSEMBル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。
- NMstage は、パナソニック株式会社の登録商標です。

## 著作権

本製品には、データを圧縮・解凍するため、UNLHA32.DLL for Win32 Ver 1.86c を使用しており、著作権は Micco が保有しています。それ以外のソフトウェアは、パナソニック株式会社が著作権を保有しております。

## 弊社以外のソフトウェア

弊社以外のソフトウェアは、予告無しに変更される場合があります。ソフトウェアの動作が本書の内容と異なる場合、本書記載内容に準じた設定を行ってください。またご不明な点は、当該ソフトウェアの購入先にお問い合わせください。

# もくじ

1	本システムの構成	7
1.1	機器の名称と概要について	7
1.1.1	管理サーバー	7
1.1.2	操作端末	7
1.1.3	NMデータゲートウェイ	7
1.1.4	プレーヤー端末	7
1.1.5	外部装置(サービスプロバイダ等)	7
1.2	システム構成例	8
1.2.1	NMデータゲートウェイのスペック	9
1.3	用語の説明	10
1.3.1	本システムで使用する用語について	10
1.3.2	表記について	11
2	ご利用の前に	12
2.1	NMデータゲートウェイの機能について	12
2.2	主な用途	13
2.3	外部装置との機能連携のイメージ	15
3	NMデータゲートウェイの利用	17
3.1	起動・終了	17
3.2	NMデータゲートウェイのライセンス	17
3.3	ライセンス登録	18
3.4	作業の流れ	19
3.4.1	放映作業フロー	19
3.5	登録処理詳細	21
3.5.1	コンテンツ自動更新機能	21
3.5.2	RSS 機能 or データベース連携機能	29
3.5.3	ファイル転送機能	36
3.5.4	イベント ドリブン機能	41
4	機能詳細	44
4.1	設定変更	44
4.2	アクセス先情報登録	45
4.2.1	アクセス先情報を登録する	45
4.2.2	アクセス先情報を変更する	51
4.2.3	アクセス先情報を削除する	52
4.3	項目情報コンテンツの登録	53
4.3.1	項目情報コンテンツを登録する	53
4.4	アクセス状態の監視	57
4.4.1	アクセス状態を監視する	57
4.4.2	アクセス先の接続処理を一時抑止する。	58
4.4.3	アクセスの一時抑止状態を解除する	58
4.4.4	全てのアクセス先へのアクセス処理を停止する	59
4.4.5	アクセス先への接続処理を再開する	59
4.4.6	凡例を表示する	59
5	コンテンツ変換手順	61
5.1	項目情報コンテンツ	61
5.2	項目情報ファイルについて	63
5.3	項目情報登録用のテンプレート HTML について	68
5.4	イベント ドリブン機能	72

5.4.1 イベント ドリブン機能の設定手順について .....	72
5.4.2 イベント ドリブン機能に必要な情報について .....	73
6 トラブルシューティング .....	75

# 基本編

# 1 本システムの構成

## 1.1 機器の名称と概要について

### 1.1.1 管理サーバー

本システムのセンター側に配置されている中核のサーバー装置です。全ての端末の制御・管理を行います。以降、管理サーバーソフト(以下、NM-SVR)がインストールされている装置を管理サーバーとします。

### 1.1.2 操作端末

管理サーバーに対して、コンテンツや運用管理情報の登録・配信などの指示を行ったり、運用状況をモニターしたりするための操作用端末です。1 台の管理サーバーに最大 4 台接続が可能です。以降、オペレーションソフト(以下、NM-OPE)がインストールされている装置を操作端末とします。

### 1.1.3 NMデータゲートウェイ

ニュースサーバー・Web サーバー・ファイルサーバー等、外部に設置された装置から、コンテンツの素材ファイルまたは表示用のテキスト情報や端末制御指示を取り込み、プレーヤー端末での表示情報更新また機器制御を行います。以降、NMデータゲートウェイソフトウェアを管理サーバー上に組み込んだものをNMデータゲートウェイとします。NMデータゲートウェイに関する設定は、お客様のシステム構成に合わせて変更してください。NMデータゲートウェイは、NM-SVR V3.0R05 の管理サーバーソフトウェアのオプション機能として予め組み込まれています。

注意！！

NMデータゲートウェイの機能を利用するためには、操作端末及びプレーヤー端末のソフトウェアを対応するバージョンに更新する必要があります。

### 1.1.4 プレーヤー端末

管理サーバーから入手したスケジュールやマルチメディアコンテンツを受信し、放映スケジュールに従って、PDP などのディスプレイに放映する再生用端末です。以降、プレーヤーソフト(以下、NM-PLR)がインストールされている装置をプレーヤー端末とします。

### 1.1.5 外部装置(サービスプロバイダ等)

本システムは、ユーザ様またはお客様、サービスプロバイダにて運用されている外部システムからの情報連携を前提としたシステムです。

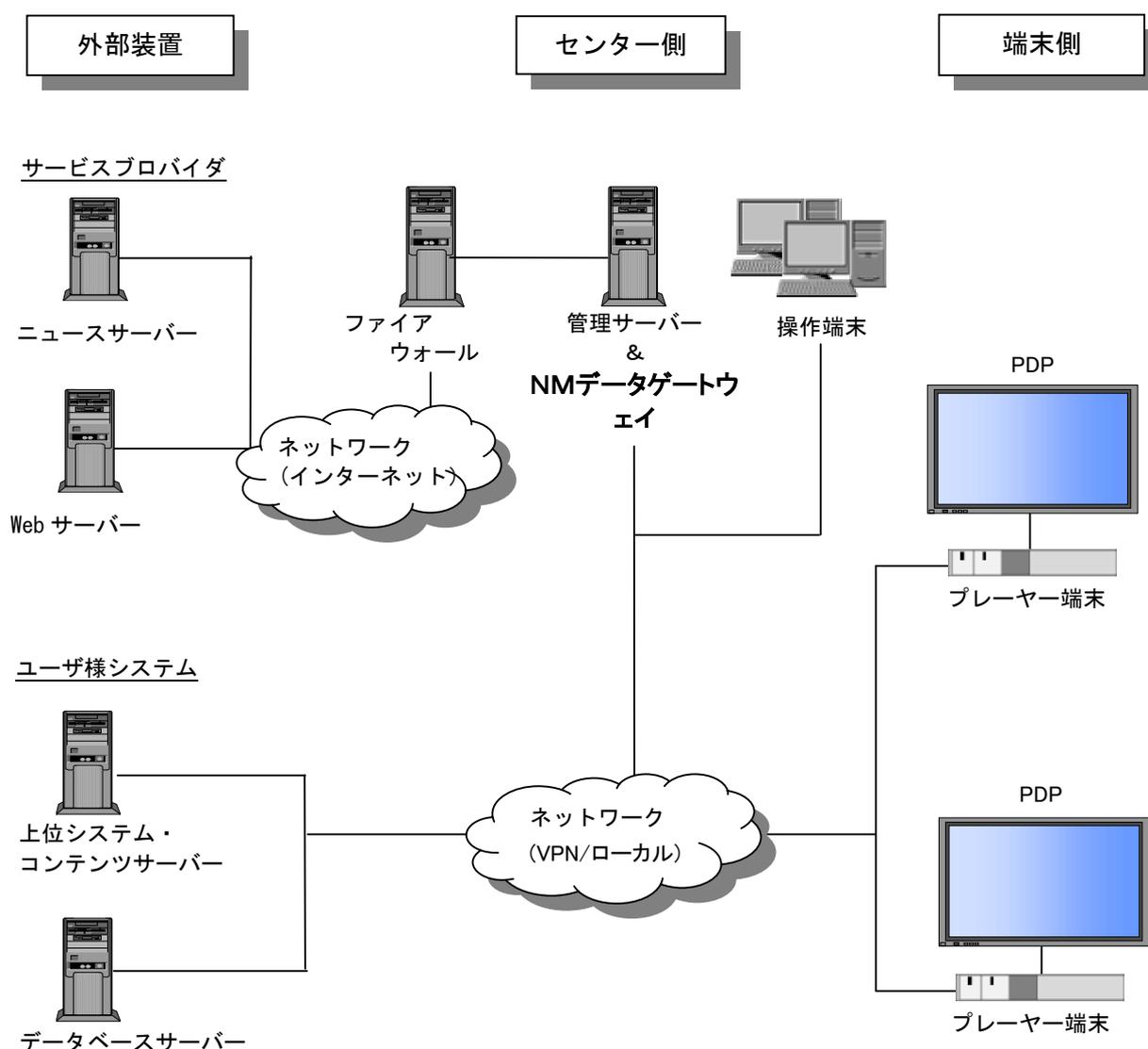
実運用に際しては、外部システムとの接続条件・連携対象情報の仕様及び運用方法をご確認の上、本システムとの連携条件の調整が必要です。

## 1.2 システム構成例

NMデータゲートウェイの構成例を以下に示します。

注意！！

- 管理サーバーとプレーヤー端末間のネットワークにインターネットなどの公衆網をご利用になる場合、VPN(Virtual Private Network)の構築を推奨しています。
- NMデータゲートウェイから、インターネットなどの外部の装置に接続する場合は、ファイアウォールなどの構築を推奨しています。VPN またファイアウォールを構築いただけない場合は、購入先にご相談ください。



## 1.2.1 NMデータゲートウェイのスペック

スペックは参考値です。お客様の使用するコンテンツの種類や配信する情報量、運用形態などにより、要求されるスペックが変わります。

### ハードウェア

CPU : Pentium4 3.4GHz 以上  
RAM : 1G Byte 以上  
データ用 HDD : 80G Byte 以上

### ソフトウェア

OS : Windows 2003 Server SP1 または R2  
Windows XP SP2

### 注意！！

- 本ソフトウェアは、管理サーバー上での動作を想定しています。スペックの判断には必ず管理サーバーの性能を加味してご検討ください。
- NMデータゲートウェイでは、転送するファイルの実体を含め毎回取得したファイルをログとして記録します。ログは7日間記録されますので、データ用 HDD の容量は、“ファイル容量×1日の転送回数×7日分”と管理サーバーで使用するコンテンツ容量を加えた値より大きいものをご用意ください。また、SVR 設定ツールにて、保管するログの期間を短くし容量を減らすことができます。

## 1.3 用語の説明

### 1.3.1 本システムで使用する用語について

本資料で使用する用語の意味を以下に説明します。

分類	用語	意味
全般	NM-SVR	管理サーバーのソフトウェアです。 ※NMデータゲートウェイのソフトウェアも、NM-SVR のオプションとして組み込まれています。
	NM-OPE	操作端末のソフトウェアです。
	NM-PLR	プレーヤー端末のソフトウェアです。
	管理サーバー	NM-SVR がインストールされている装置です。
	操作端末	NM-OPE がインストールされている装置です。
	プレーヤー端末	NM-PLR がインストールされている装置です。
	NMデータゲートウェイ	NM-SVR がインストールされ、NMデータゲートウェイソフトウェアのライセンス認証が完了した装置となります。※管理サーバーと同じ装置となります。
	外部装置	情報を入力する装置になります。 外部装置には、ニュースサーバー/Web サーバー等のサービスプロバイダが提供する情報や、ユーザ様またはお客様にて構築される上位システム・ファイルサーバー/データベースサーバー等があります。
	ユーザ	複数のユーザを登録し、コンテンツや運用管理情報などの全ての情報をユーザ毎に別管理することが可能です。ASP サービス等の特別な使い方をする場合以外は複数登録する必要はありません。
	アカウント	操作端末でログインする時のログイン名です。
	端末グループ	本システムにおいて、複数端末への一括操作を実行するために設定する単位です。端末登録時に所属するグループを設定します。
	ディスプレイ	表示装置を指し、本システムでは基本的に当社製 PDP を想定します。
	アクセス先情報	NMデータゲートウェイにて情報を取り込む先の外部装置との接続情報を記載したのになります。
イベント定義ファイル	プレーヤー端末を制御するコマンドをまとめて、幾つかのパターンを作成し、これらをまとめたファイルになります。	
コンテンツ	コンテンツ	ディスプレイに表示させる動画や静止画、テキスト等です。
	ID	コンテンツの管理番号です。
	通常コンテンツ	動画や静止画のコンテンツです。
	テロップコンテンツ	ディスプレイの右から左へ流れるテキスト文字のコンテンツです。
	NM コンテンツ	通常コンテンツ及びテロップコンテンツの総称です。
	サムネイル	コンテンツのイメージを小さく表示したものです。
	カテゴリ	コンテンツを管理上、分類したものです。
	共通コンテンツ	全てのプレーヤー端末で利用可能なコンテンツです。
	個別コンテンツ	特定のプレーヤー端末でのみ利用可能なコンテンツです。
	項目情報コンテンツ	特定のキーを埋め込んだ HTML 形式のコンテンツにて、逐次取り込んだ情報にて表示内容を更新します。
	項目情報ファイル	項目情報コンテンツが参照する INI ファイル形式で記述されたソースファイルです。
	連携用一時ファイル	イベント定義ファイルの中で実行するコマンドのパターンを定義します。
	ユーザファイル	ユーザ様またはお客様にて表示方法や運用を決めて利用するファイルです。プレーヤー端末の固定フォルダに転送されます。

### 1.3.2 表記について

本資料の表記方法を以下に説明します。

分類	用語	意味
マウス	クリック	操作の対象上で、マウスの左ボタンを1回押します。
	右クリック	操作の対象上で、マウスの右ボタンを1回押します。
	ダブルクリック	操作の対象上で、マウスの左ボタンを2回押します。
	ドラッグ	操作の対象上で、マウスの左ボタンを押したまま、移動します。
	ドラッグ&ドロップ	目的のところまでドラッグし、マウスの左ボタンを離します。
全体	注意 !!	誤った取り扱いをしないための注意事項です。
	ポイント	操作のポイントや概念、製品を取り扱う上で、知っておくと便利な機能です。
	参考	使用頻度の低い機能、及び操作のアドバイスです。
	参照先	他ドキュメントや、他ページを参照する場合の参照先を【 】で記載します。
	ボタン、タブ	『 』で記載します。
キーボード	キー	囲みで記載します。 (例).コントロールキー <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">Ctrl</span>
	2つ以上のキーを同時に押す	+でつないで記載します。 (例). Ctrl を押しながら Alt を押す <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">Ctrl</span> + <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">Alt</span>

## 2 ご利用の前に

### 2.1 NMデータゲートウェイの機能について

NMデータゲートウェイの導入により、外部装置から NMstage システムに対して下記の機能連携ができます。

機能連携	概要説明
コンテンツ自動更新機能	外部装置から取り込んだコンテンツと、プレーヤー端末に配信している NM コンテンツを差し替えて表示させることができます。 外部装置の指定ファイルを定期的に参照し、更新があった場合に差し替え処理を行います。 ・差し替え前のコンテンツは、予めプレーヤー端末に配信されていることが前提となります。 ・本機能では、プレーヤー端末に直接コンテンツを配信しますので、管理サーバー上のコンテンツは更新されません。
RSS機能	特定のキー情報を埋め込んだ HTML 形式の項目情報コンテンツを、予めプレーヤー端末に配信しておき、外部装置から取り込んだ、テキストの情報で、コンテンツの特定キーを差し替えて表示します。または、テロップとして流れる文字の差し替えを行います。 外部装置の指定ファイルを定期的に参照し、更新があった場合にテキストの情報を抽出し、プレーヤー端末に配信します。 ・項目情報コンテンツと外部装置から取り込んだ、テキストの情報の関連付けを事前に確認する必要があります。
ファイル転送機能	外部装置からユーザファイルを取得し、プレーヤー端末に配信します。取得したファイルをそのままプレーヤー端末の固定のフォルダに配信しますので、ユーザ様またはお客様にて運用をご検討いただけます。
イベント ドリブン機能	外部装置からプレーヤー端末制御を行うためのファイル「連携用一時ファイル」を取得し、NMstage システムで管理するプレーヤー端末に対して、制御指示を行うことができます。 ・予め、プレーヤー端末に対する制御情報を、「イベント定義ファイル」に記述し、NMデータゲートウェイ上に登録しておく必要があります。
データベース連携機能	RSS機能と同じですが、テロップとして流れる文字の差し替えはできません。

注意！！

- コンテンツ自動更新機能にて、ファイルサイズの大きな動画では転送時間がかかるため運用で制限するようご検討ください。
- NMデータゲートウェイにおいて、外部装置へ受信結果を通知する機能はありません。操作端末のアクセス状態監視画面より、ご確認ください。
- 大きなファイルを繰り返し転送する場合は、ハードディスクが逼迫しますので空き容量に注意してください。

## 2.2 主な用途

1) 外部装置との連携方法と主な用途を以下の表に示します。

外部装置/ファイル形式	連携方法	主な用途
ニュースサーバー・ Webサーバー /RSS	<b>■RSS機能</b> 外部装置から取り込んだ文字情報を、HTMLコンテンツのテキスト文字と置換して表示します。	ニュースなどのヘッドラインを一覧表示
	<b>■コンテンツ自動更新機能</b> テロップコンテンツフォーマットに置換して、プレーヤー端末の当該コンテンツと差し替えて表示します。	ニュース、天気、株価などをテロップで表示
ファイルサーバー /NMコンテンツ	<b>■コンテンツ自動更新機能</b> 外部装置から取得したコンテンツをプレーヤー端末に配信し、該当コンテンツと差し替えて表示します。	JPEG・BMP・MPEG・WMV等のコンテンツを差し替えて表示
データベースサーバー /DB情報	<b>■データベース連携機能</b>	ランキング情報などのDB情報を表示
ファイルサーバー /ユーザファイル	<b>■ファイル転送機能</b> ユーザ様またはお客様にてご用意頂いた、ユーザファイルを無加工でプレーヤー端末の固定フォルダへ転送します。	株価、時刻表、天気、イベントなどのユーザオリジナルのコンテンツを表示
ファイルサーバー /連携用一時ファイル	<b>■イベントドリブン機能</b> イベント定義ファイルに定義した制御リストに従いPDPの制御や割込み表示します。	タイムセール、火災、避難誘導等の割込み表示、PDP制御
Webサーバー /XMLファイル	<b>■RSS機能</b>	株価情報の表示(HTMLベースの表示)

## 2) 入力可能なファイル形式

### ■RSS

新聞社などのニュース配信サイトよりヘッドラインなどの情報になります。

RSS 1.0(RDF Site Summary)/RSS 2.0(Really Simple Syndication)/Atom1.0に対応しています。

RSSを表示するには当該RSS管理者の許諾が必要になります。

### ■NMコンテンツ

MPEG1・MPEG2・MPEG2 HD ・Windows Media ファイル(WMV)・Windows Media ファイル(WMV) HD・BMP・JPEG・Flash・PPS(PowerPoint スライドショー)の単一のコンテンツになります。各コンテンツのフォーマットの詳細に関しましては、【管理サーバー 取扱説明書(操作編)】をご参照ください。

### ■DB 情報

データベースから取得する情報になります。

ご利用可能なデータベースは、PostgreSQL Version8.2.5 になります。

### ■ユーザファイル

ユーザ様またはお客様にてご用意頂くファイルになります。NMデータゲートウェイでは情報の加工は行いません。

### ■連携用一時ファイル

プレーヤー端末をコントロールするための専用ファイルになります。

予め制御する内容を記述した、イベント定義ファイルを作成しNMデータゲートウェイ内に配置する必要があります。

### ■XML ファイル

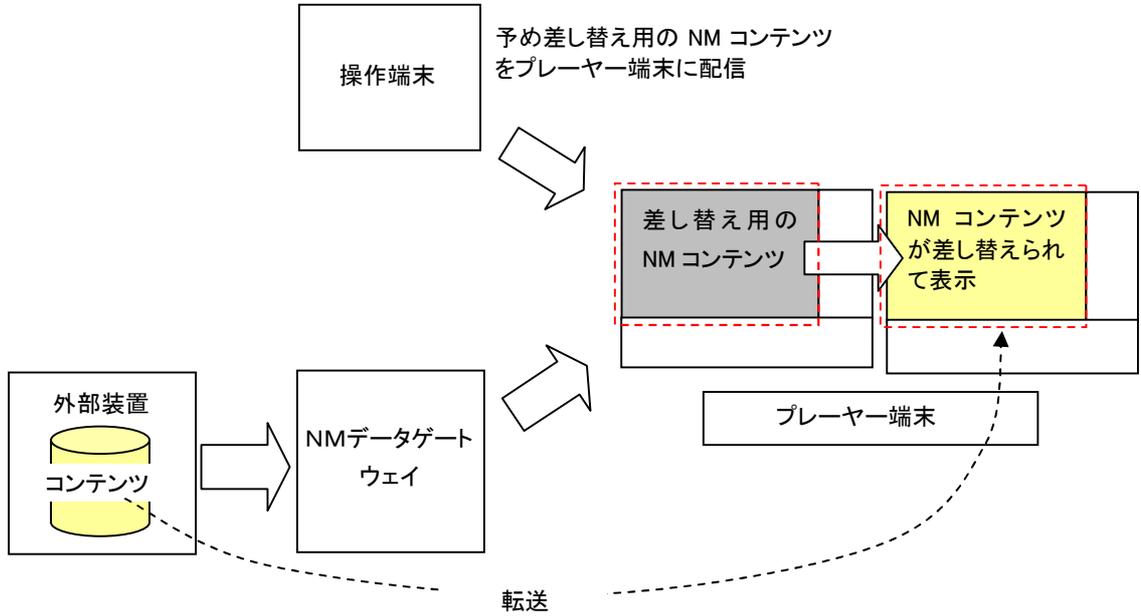
XML ファイルは、株価情報等をサービスする会社の専用フォーマットです。

運用については、情報提供会社とのサービス契約が必要になります。

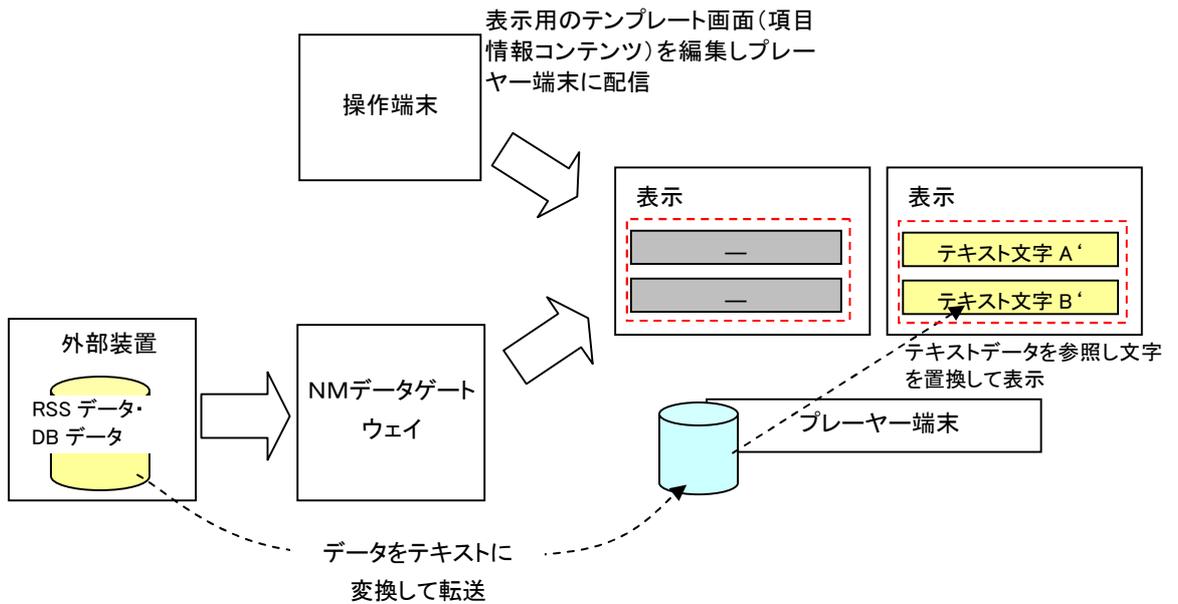
詳細は、本ソフトウェア購入先の販売店にお尋ねください。

## 2.3 外部装置との機能連携のイメージ

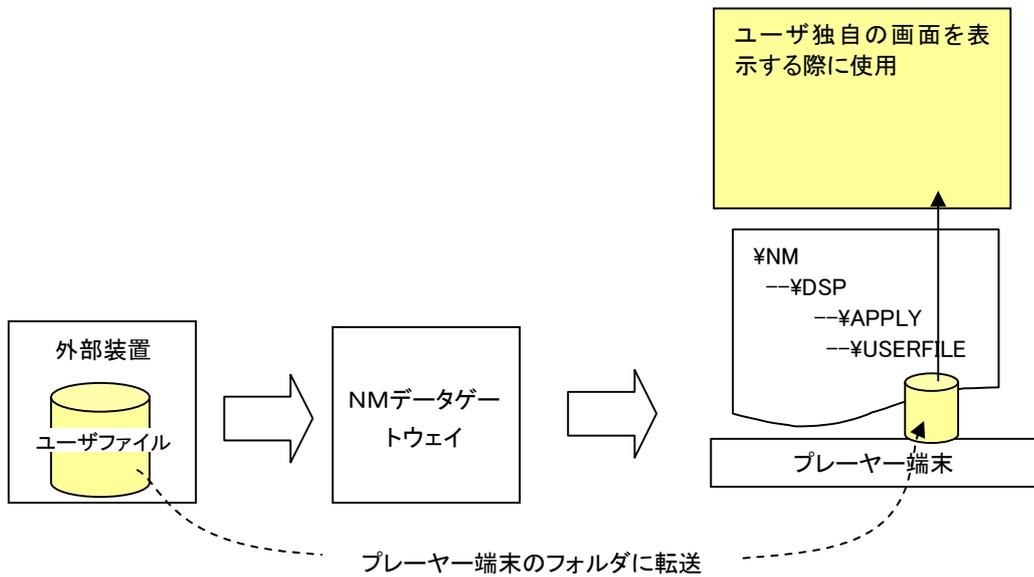
### 1) コンテンツ自動更新機能



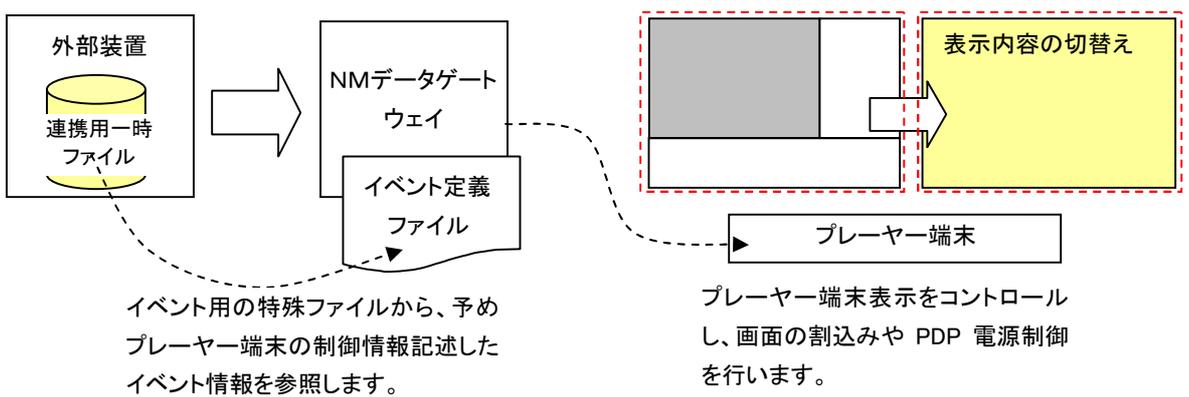
### 2) RSS機能 or データベース連携機能



### 3) ファイル転送機能



### 4) イベントドリブン機能



# 3 NMデータゲートウェイの利用

## 3.1 起動・終了

NMデータゲートウェイの起動・終了は、管理サーバーにて管理されます。管理サーバーの起動・終了に連動し、NMデータゲートウェイも起動・終了します。

管理サーバーの起動・終了に関しては、【管理サーバーソフト 取扱説明書(操作編)】をご参照ください。

## 3.2 NMデータゲートウェイのライセンス

NMデータゲートウェイをご利用になるには、管理サーバーライセンスの他にNMデータゲートウェイのサービスを利用するためのライセンスが必要になります。

No.	項目	解説	特記
1	データ変換ライセンスコード	NMデータゲートウェイ運用のための必要なライセンスコードになります。(データベースサーバーを用いる連携機能を含みません)	※必須 本パッケージのライセンス証書に記載しています。
2	DB 連携ライセンスコード	データベースサーバーから、データを取得します。 ※データ変換ライセンスコードの登録を前提とします。	※任意 運用に合わせて選択してください。

### 注意！！

本ソフトウェアのDB連携で接続可能なデータベースは、PostgreSQL Version8.2.5です。

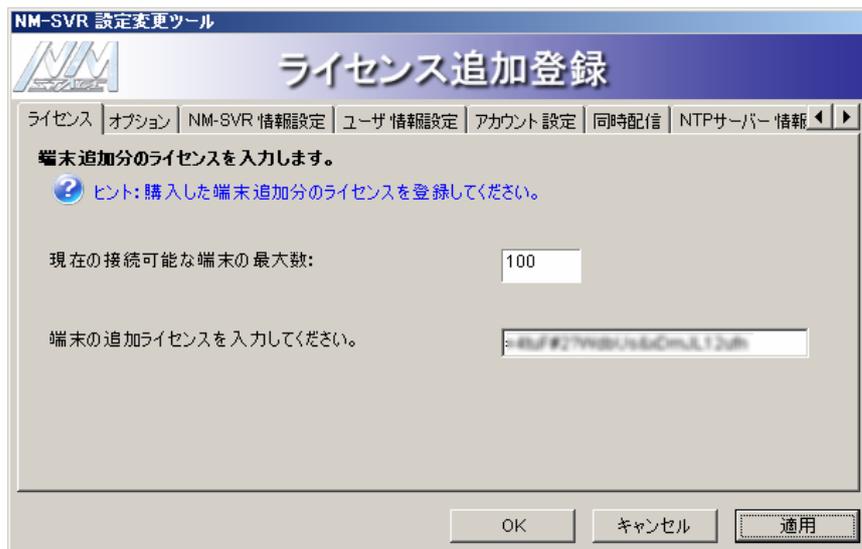
本ソフトウェアのDB連携機能をご利用になるには、データ変換機能のライセンスコードも併せて登録していただく必要があります。

### 3.3 ライセンス登録

NMデータゲートウェイのデータ変換ライセンスコード、及び DB 連携ライセンスコードを登録します。

**STEP 1** 「スタート」→「全てのプログラム(P)」→「NMstage」→「NM-SVR 設定変更」を選択し、NM-SVR 設定画面を表示します。

実行中のプログラム等があれば終了させてから NM-SVR 設定画面を起動してください。



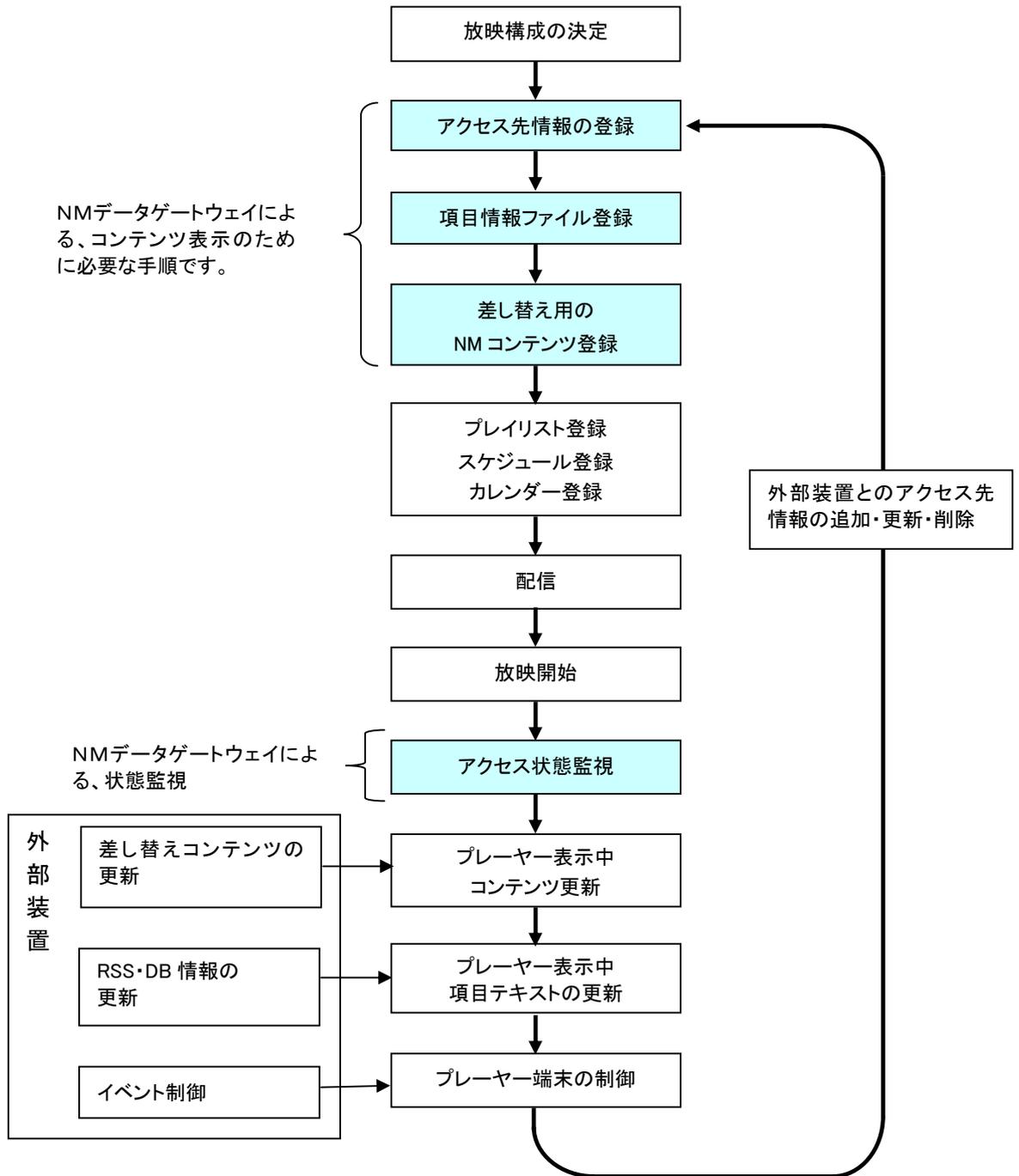
**STEP 2** 本パッケージのライセンス証書に記載のデータ変換ライセンスコードを半角英数字で追加入力し、「適用」をクリックしてください。DB 連携機能をご使用になる場合は、続けて登録を行ってください。DB 連携ライセンスコードの登録が不要であれば『OK』をクリックします。

**STEP 3** NMデータゲートウェイの機能を有効にするには、マシンを再起動してください。

### 3.4 作業の流れ

プレーヤー端末でコンテンツを放映するまでには、複数の作業が必要となります。以下に、NMデータゲートウェイを利用するに当たり追加された作業について記述します。

#### 3.4.1 放映作業フロー



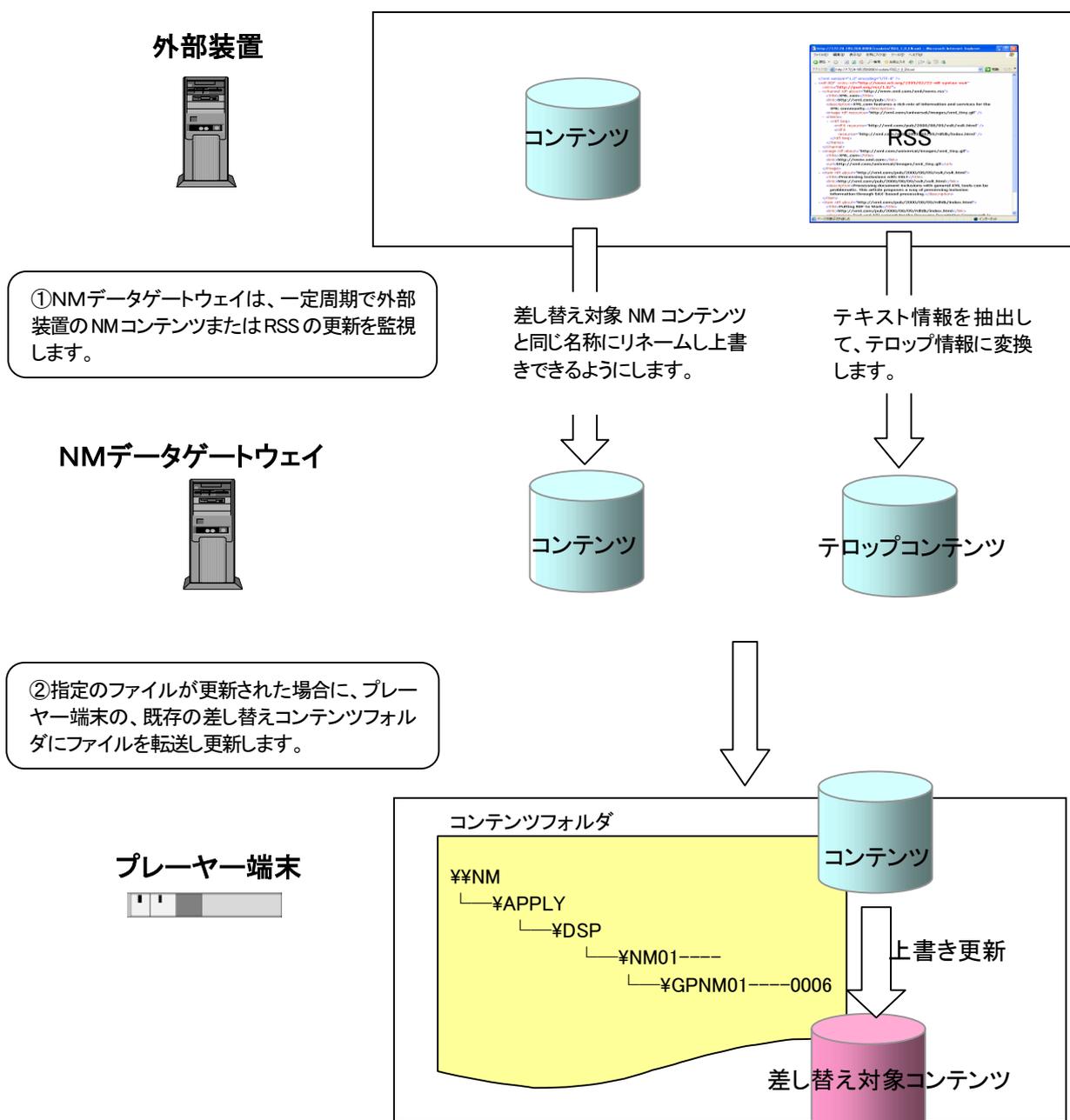
アクセス先情報登録	外部装置への接続に必要な情報を登録します。また、取得した情報を利用するための変換処理の選択・配信先プレーヤー端末の選択などを行います。 イベントドリブン機能の場合は、外部装置への接続情報に加えてイベントにて行うイベント定義ファイルを作成し、NMデータゲートウェイに配置します。
項目情報コンテンツ登録	外部装置から取得する項目情報ファイルと、実際に表示する項目情報コンテンツの関連付け設定を行い登録します。 項目情報コンテンツは HTML で記述し、指定した項目情報コンテンツ内のテキスト情報文字を項目情報ファイルのテキストと置換して表示します。
NM コンテンツ登録 (差し替え用の NM コンテンツ)	外部装置から取り込むコンテンツの差し替え対象となる NM コンテンツを登録します。
アクセス状態監視	接続状況とデータの更新状況をモニターできます。

### 3.5 登録処理詳細

#### 3.5.1 コンテンツ自動更新機能

##### 1) コンテンツ自動更新機能概要

表示用の差し替え対象コンテンツ枠をスケジュールに予め用意し、差し替え対象コンテンツとNMデータゲートウェイで取り込んだコンテンツを差し替えて表示します。  
ファイルサーバーに用意した動画・静止画などと差し替えて表示させたり、ニュース配信サイトより提供される、ヘッドラインニュースや天気予報などの情報を、テロップとしてスクロール表示させたりすることができます。

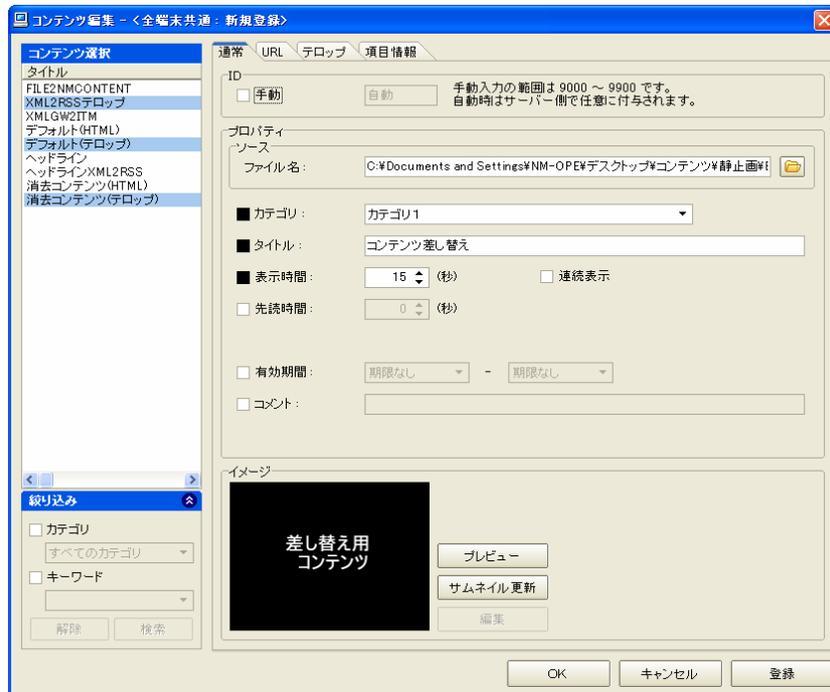


## 2) 静止画コンテンツの差し替え

ここでは、JPEG 静止画コンテンツの差し替えを例に具体的な操作手順を説明します。

### ①操作端末にて、差し替え用の通常コンテンツを登録します。

操作端末のコンテンツ編集画面から JPEG 静止画コンテンツを登録してください。



登録完了後に、『詳細』のタブを選択し、差し替え用に登録した通常コンテンツの ID を確認します。  
この例でのコンテンツ ID は、「GPNMR6----0006」となります。

タイトル	拡張子	ID	表示時間	有
FILE2NMCONTENT	jpg	GPNMR6----0005	00:00:15	*
XML2RSSテロップ		GPNMR6----0003	*	*
XMLGW2ITM	itm	GPNMR6----0004	00:00:15	*
コンテンツ差し替え	bmp	GPNMR6----0006	00:00:15	*
コンテンツ差し替えテロップ		GPNMR6----0007	00:00:15	*
デフォルト(HTML)	htm	GPNMR6----9999	*	*
デフォルト(テロップ)		GPNMR6----9997	*	*
ヘッドライン	itm	GPNMR6----0001	00:00:15	*
ヘッドラインXML2RSS	itm	GPNMR6----0002	00:00:15	*
消去コンテンツ(HTML)	htm	GPNMR6----9998	*	*
消去コンテンツ(テロップ)		GPNMR6----9996	*	*

### ②プレイリスト、スケジュール、カレンダーを登録します。

【管理サーバーソフト 取扱説明書(操作編)】に従い、差し替え用のコンテンツを含むプレイリスト・スケジュール・カレンダーと登録を行い、情報をプレーヤー端末に配信してください。

③アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

ログイン

接続先  
管理サーバー NM-SVR

アカウント  
ログインID nmstage  
パスワード \*\*\*\*\*

ログイン キャンセル



アクセステーブル画面が表示されます。

NMstage データゲートウェイ アクセステーブル編集 V0.9.0.14

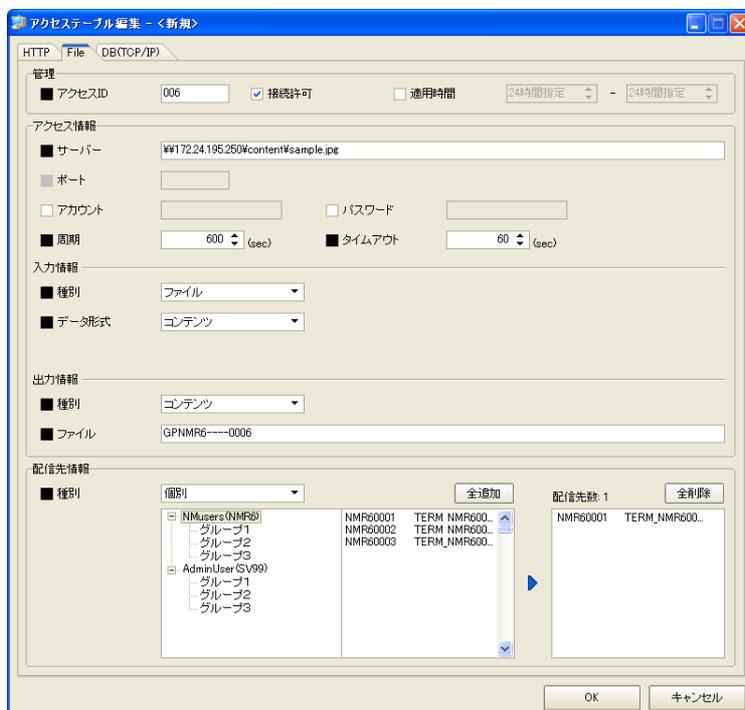
ファイル(F) 編集(E) 表示(V)

新規登録(N) Ctrl+N  
アクセス情報全更新(R)  
終了(O)

時刻	URL	ポート	周期	プロトコル	アカウント
59	172.24.195.250	5432	600	DB	postgres
59	http://172.24.195.250/rssdata/Replace_JPN_Rss10.xml	8080	600	HTTP	
003	¥¥172.24.195.250/content/test.jpg	600	600	FILE	nmstage
004	http://172.24.195.250/rssdata/Replace_JPN_Rss10.xml	8080	600	HTTP	
005	http://172.24.195.250/xmlw/replace_sample_JP.xml	8080	600	HTTP	
050	¥¥172.24.195.250/content/folder	600	600	FILE	
051	http://172.24.195.250/rssdata/Template/news_base_atom10.xml	80	600	HTTP	
052	172.24.195.250	5432	600	DB	postgres
060	¥¥172.24.195.250/content/event	600	600	FILE	
100	¥¥172.24.195.250/content/sample.jpg	600	600	FILE	

操作端末にて、差し替え用に登録した通常コンテンツと、差し替えるコンテンツのある外部装置とのリンク付けを行います。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。



ここでは、外部装置の共有フォルダからデータを取得する場合の入力例を記します。  
各設定情報の詳細に関しては、【4 .2 .1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『File』を選択します。
②	管理	アクセス ID	001 を入力します。 001 - 500 の範囲で未使用の番号を入力します。
③	管理	接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。 チェック無しではデータ取得されません。
④	管理	適用時間	チェック状態にすると、情報更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。 初期状態(チェック無し)の場合、24 時間指定となります。
⑤	アクセス情報	サーバー	実際に接続する環境に応じて設定内容は変更してください。 (例)¥¥192.168.1.10¥¥content¥¥sample.jpg JPEG コンテンツ差し替えでは、必ず JPEG ファイルを指定します。
⑥	アクセス情報	ポート	—
⑦	アクセス情報	アカウント/パスワード	なし 共有サーバー上にログイン名/パスワード無しでアクセスできる場合のみ
⑧	アクセス情報	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒

	入力項目		設定例	補足説明
⑨		タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報	種別	ファイルを選択します。	
⑪		データ種別	コンテンツを選択します。	
⑫	出力情報	種別	コンテンツを選択します。	
⑬			差し替え用の通常コンテンツIDを設定します。コンテンツ登録時に確認した GPNMR6----0006 を設定します。	
⑭	配信先情報	種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 グループ: ユーザのグループ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 個別: プレイヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。	

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、ファイルが更新されているどうかをチェックします。ファイルが更新されている場合はそのファイルを読み込み、指定されたプレイヤー端末に配信します。

**注意！！**

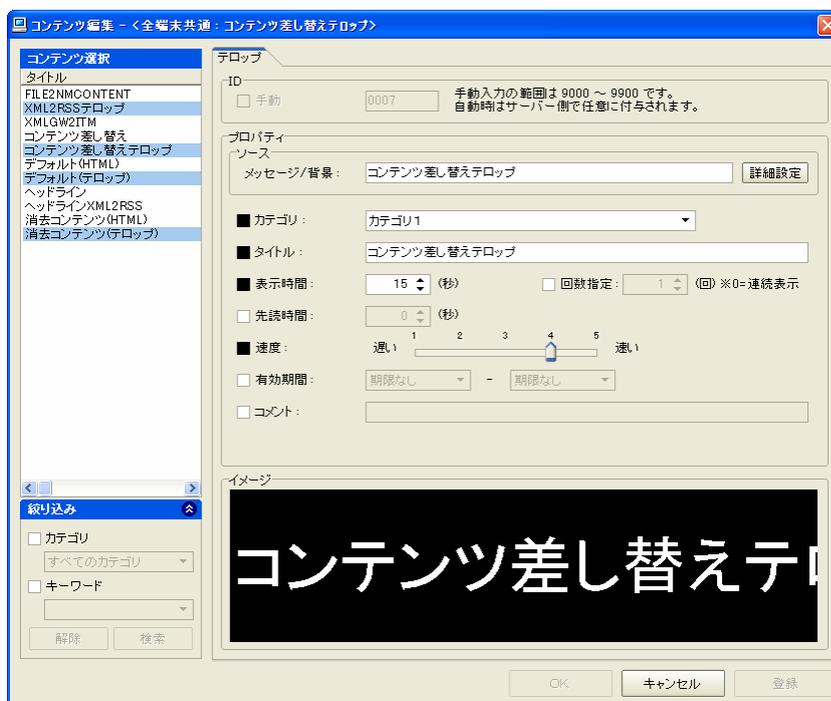
NM コンテンツ差し替えの場合、ファイル種別が異なるとアクセス先として登録できません。

### 3) テロップコンテンツの差し替え

ここでは、RSS のニュースサーバーから取得した情報をテロップコンテンツの差し替えを例に具体的な操作手順を説明します。

#### ①操作端末にて、差し替え用のテロップコンテンツを登録します。

操作端末のコンテンツ登録画面からテロップコンテンツを登録してください。



登録完了後に、『詳細』のタブを選択し、差し替え用に登録したテロップコンテンツの ID を確認します。  
この例でのコンテンツ ID は、「GPNMR6----0007」となります。

タイトル	拡張子	ID	表示時間	有
FILE2NMCONTENT	jpg	GPNMR6----0005	00:00:15	*
XML2RSSテロップ		GPNMR6----0003	*	*
XMLGW2ITM	itm	GPNMR6----0004	00:00:15	*
コンテンツ差し替え	bmp	GPNMR6----0006	00:00:15	*
コンテンツ差し替えテロップ		GPNMR6----0007	00:00:15	*
デフォルト(HTML)	htm	GPNMR6----9999	*	*
デフォルト(テロップ)		GPNMR6----9997	*	*
ヘッドライン	itm	GPNMR6----0001	00:00:15	*
ヘッドラインXML2RSS	itm	GPNMR6----0002	00:00:15	*
消去コンテンツ(HTML)	htm	GPNMR6----9998	*	*
消去コンテンツ(テロップ)		GPNMR6----9996	*	*

#### ②プレイリスト、スケジュール、カレンダーを登録します。

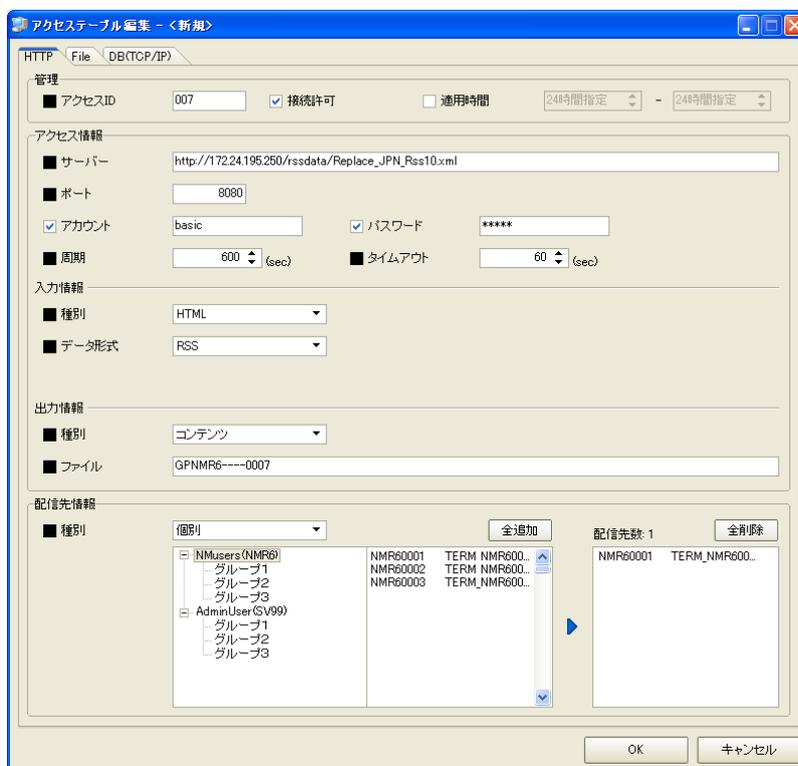
【管理サーバーソフト 取扱説明書(操作編)】に従い、差し替え用のコンテンツを含むプレイリスト・スケジュール・カレンダーと登録を行い、情報をプレーヤー端末に配信してください。

③アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。



外部装置のニュースサーバーからデータを取得する場合の入力例を記します。

各設定情報の詳細に関しては、【4 .2 .1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『HTTP』を選択します。
②		アクセス ID	002 を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。
④		適用時間	チェック状態にすると、情報更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。
⑤	アクセス情報	サーバー	RSS を取得する、URL サイトのパスを記述します。取得する URL サイトに合わせて変更してください。 (例)http://192.168.1.10/contet/sample.rdf
⑥		ポート	WWW サーバーのポート番号を設定します。(デフォルト 80 番)
⑦		アカウント/パスワード	ベーシック認証が必要な場合に設定します。

	入力項目	設定例	補足説明
⑧	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒	
⑨	タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報	種別	HTML を選択します。
⑪		データ種別	RSS を選択します。
⑫	出力情報	種別	コンテンツを選択します。
⑬			差し替え用のテロップコンテンツ ID を設定します。コンテンツ登録時に確認した GPNMR6----0007を設定します。
⑭	配信先情報	種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 グループ: ユーザのグループ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 個別: プレイヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

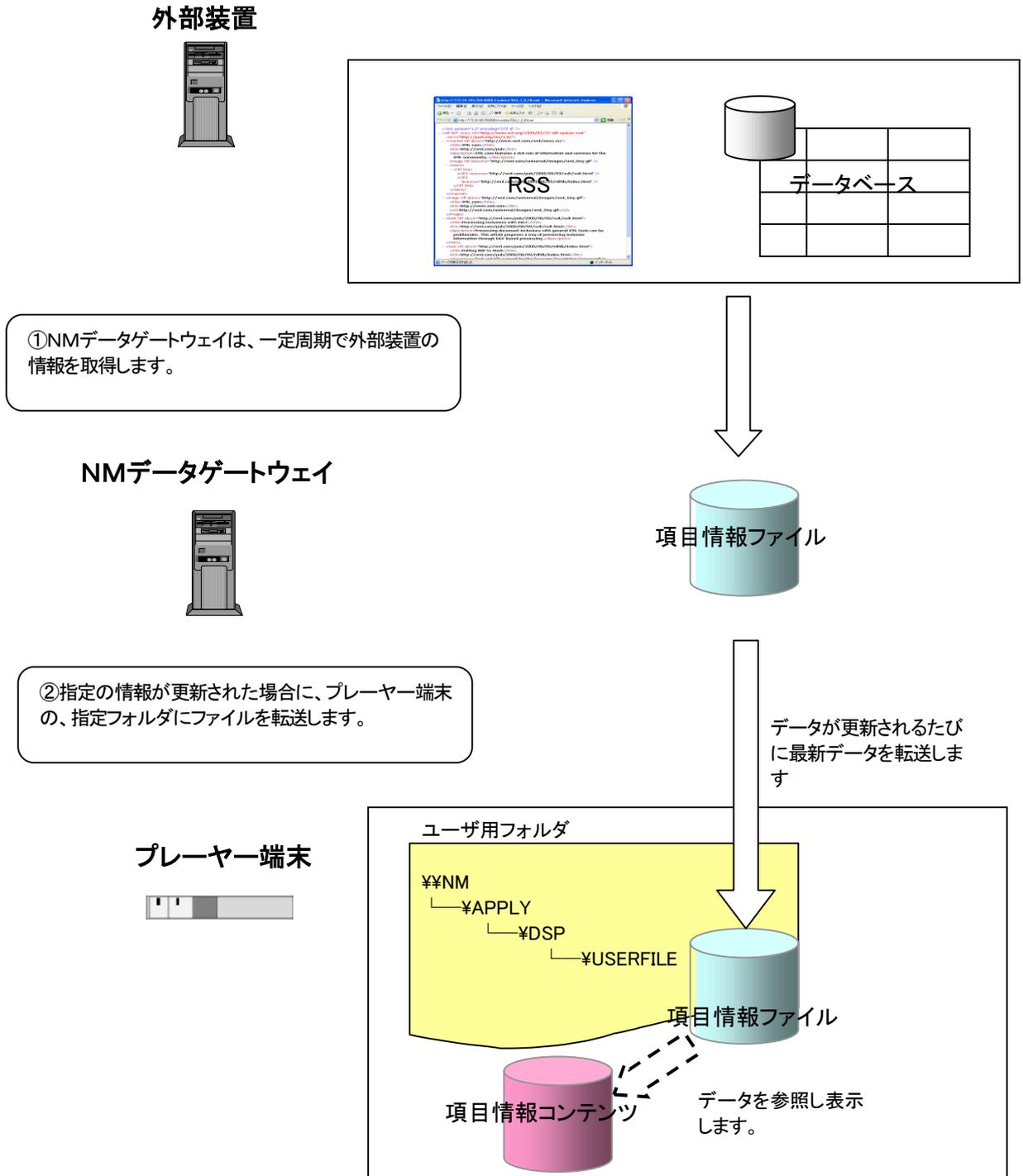
以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、RSS データが更新されているどうかをチェックします。RSS データが更新されている場合はその RSS データを読み込み、指定されたプレイヤー端末に配信します。

### 3.5.2 RSS 機能 or データベース連携機能

#### 1) RSS 機能 or データベース連携機能概要

ニュース配信サイトより提供される、ヘッドラインニュースや天気予報など、またデータベースのテキスト情報を、HTML 画面に埋め込んで表示させます。テキスト情報が更新されるたび画面の内容が更新されます。



## 2) RSS のニュースサーバーからの取得

ここでは、動的な表示情報の更新方法について RSS を例に具体的な操作手順を説明します。

### ①アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。

外部装置のニュースサーバーからデータを取得する場合の入力例を記します。

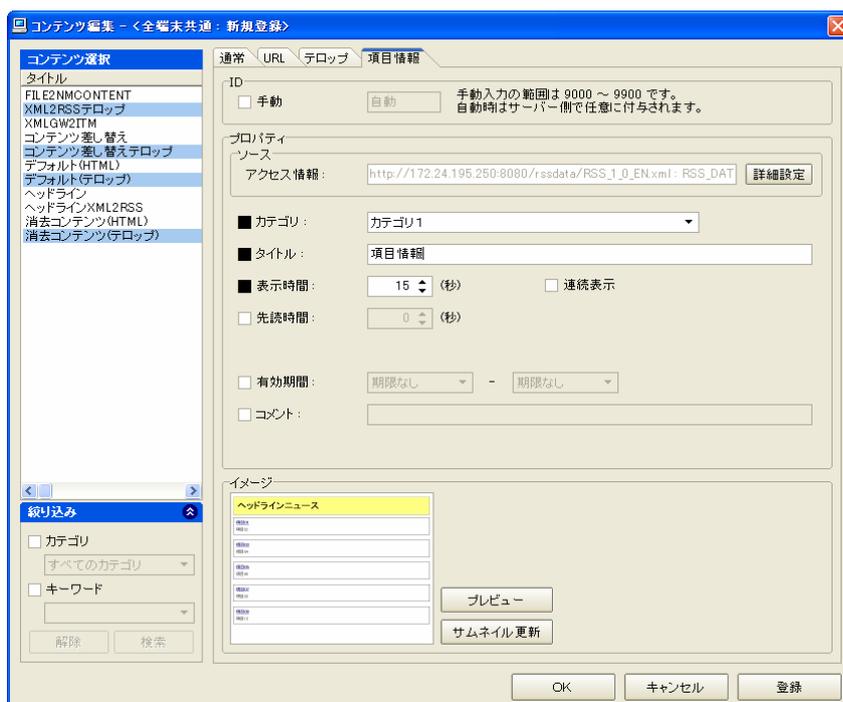
各設定情報の詳細に関しては、【4 .2 .1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『HTTP』を選択します。
②		アクセス ID	003 を入力します。 001 - 500 の範囲で未使用の番号を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。 チェック無しではデータ取得されません。
④		適用時間	チェック状態にすると、情報更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。

	入力項目	設定例	補足説明
⑤	アクセス情報 サーバー	RSSを取得する、URLサイトのパスを記述します。取得するURLサイトに合わせて変更してください。 (例) http://192.168.1.10/contet/sample.rdf	
⑥	ポート	WWW サーバーのポート番号を設定します。	デフォルト 80 番です。
⑦	アカウント/パスワード	ベーシック認証が必要な場合に設定します。	
⑧	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒	
⑨	タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報 種別	HTML を選択します。	
⑪	データ種別	RSS を選択します。	
⑫	出力情報 種別	項目情報を選択します。	
⑬	ファイル	項目情報ファイル名称を入力します。(例) RSS_DATA.ini	
⑭	配信先情報 種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 グループ: ユーザのグループ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 個別: プレイヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。	

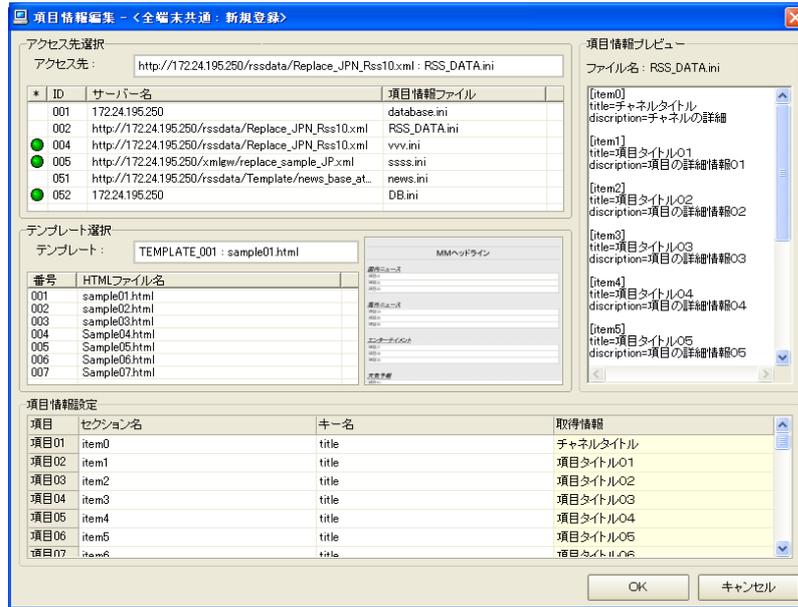
②操作端末にて、項目情報コンテンツを登録します。

操作端末のコンテンツ登録画面から項目情報コンテンツを登録してください。



③項目情報の詳細を入力します。

『詳細設定』ボタンを押下し、項目情報の詳細画面入力を行います。



	入力項目	設定内容
①	アクセス先選択	出力先種別に「項目情報」を設定したアクセス先一覧が表示されます。 (例)ここでは、RSS_DATA.ini を選択します。
②	項目情報プレビュー	アクセス先一覧で選択した項目情報ファイルの内容をプレビューします。 ※アクセス先から項目情報を取得していない場合、プレビュー欄には「Not Found」と表示されます。
③	テンプレートHTML	表示専用のテンプレートを選択します。 利用目的に合わせ当社で用意した項目情報コンテンツの表示専用のテンプレートになります。ユーザー様またはお客様にて任意に追加・編集ができます。
④	項目情報設定	RSS データより抽出された情報と、テンプレート HTML にて表示する情報を関連付けます アクセス先の情報種別によりセクション・キーが異なりますので、【5 .1 項目情報ファイルについて】をご参照ください。  (例) 項目情報ファイルの内容で、項目01へ「チャンネルタイトル」と表示されるために、項目01のセクションに「item0」・キー名に「title」を入力します。 項目02へ「項目タイトル01」と表示されるために、項目02のセクションに「item1」・キー名に「title」を入力します。

(例) 項目情報ファイル

```
[Item0]
Title = チャンネルタイトル
Description = チャンネルの詳細
[Item1]
Title = 項目タイトル01
Description = 項目の詳細情報01
[Item2]
...
[Item3]
```

注意！！

- 項目情報ファイルのセクション・キーの内容は、外部装置からの取得情報により変わります。また、取得情報によりセクションの数や、キー数も変動します。詳しくは【5 .1 項目情報ファイルについて】をご参照ください。
- 外部装置からの取得した情報を取得する場合に、意図しない情報が表示されることがあります。外部装置に登録する RSS 内の情報の順番等に注意してください。

④プレイリスト、スケジュール、カレンダーに登録します。

【管理サーバーソフト 取扱説明書(操作編)】に従い、コンテンツのプレイリスト・スケジュール・カレンダーと登録を行い、情報をプレーヤー端末に配信してください。

以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、RSS データが更新されているどうかをチェックします。RSS データが更新されている場合はその RSS データを読み込み、指定されたプレーヤー端末に配信します。

### 3) データベースからの取得

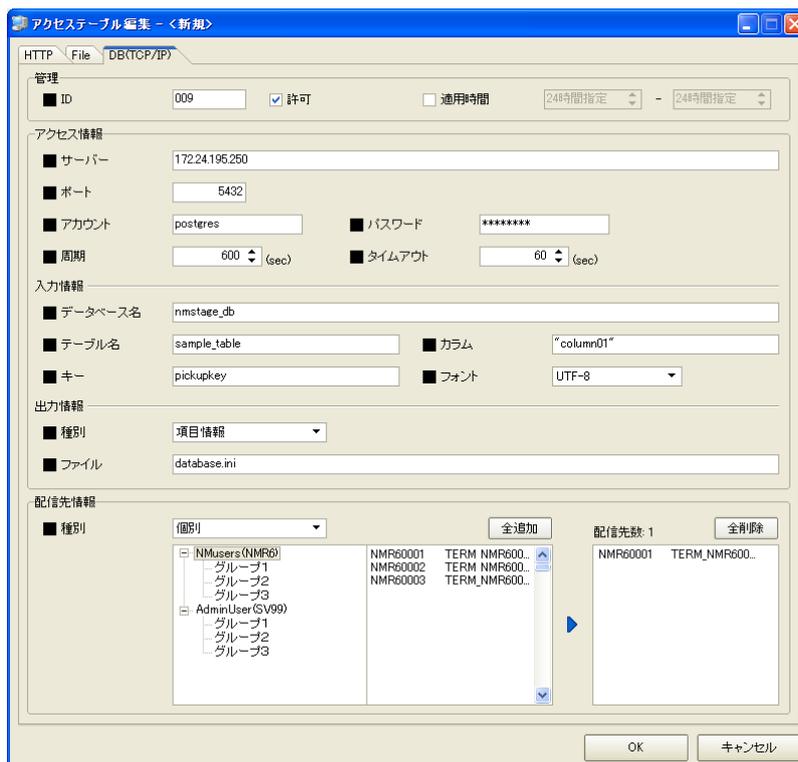
ここでは、データベースからのデータ取得の設定について説明します。

#### ①アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。



外部装置のデータベースからデータを取得する場合の入力例を記します。

各設定情報の詳細に関しては、【4.2.1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『DB』を選択します。
②		アクセス ID	004 を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。
④		適用時間	チェック状態にすると、DB データの更新確認の適用時間を指定できます。時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。
⑤	アクセス情報	サーバー	データベースのサーバーを設定します。 (例) 192.168.1.10
⑥		ポート	データベースのサーバーのポート番号を設定します。

	入力項目	設定例	補足説明	
⑦	アカウント/パスワード	データベースのサーバー認証に必要な場合に設定します。		
⑧	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒		
⑨	タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒		
⑩	入力情報	データベース名	データベース名称を入力します。 (例)“nmstage_db”	大文字と小文字は区別されます。
⑪	テーブル名	参照するテーブル名称を入力します。 (例)“sample_table”	大文字と小文字は区別されます。	
⑫	カラム	テーブルにて抽出するレコードのキーのあるカラム名称を設定します。 (例)“column01”	大文字と小文字は区別されます。	
⑬	キー	データ抽出する際のキー名を設定します。 (例)“pickupkey”	大文字と小文字は区別されます。	
⑭	フォント	データベースのフォント種別を設定します。		
⑮	出力情報	種別	項目情報を選択します。	
⑯	ファイル	項目情報ファイル名称を入力します。(例) database.ini		
⑰	配信先情報	種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 グループ: ユーザのグループ配下の全てのプレイヤー端末に配信します。 個別: プレイヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。	

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

以降、【2】RSS のニュースサーバーからの取得と同じように、操作端末にて、項目情報コンテンツ、プレイリスト、スケジュール、カレンダーを登録します。

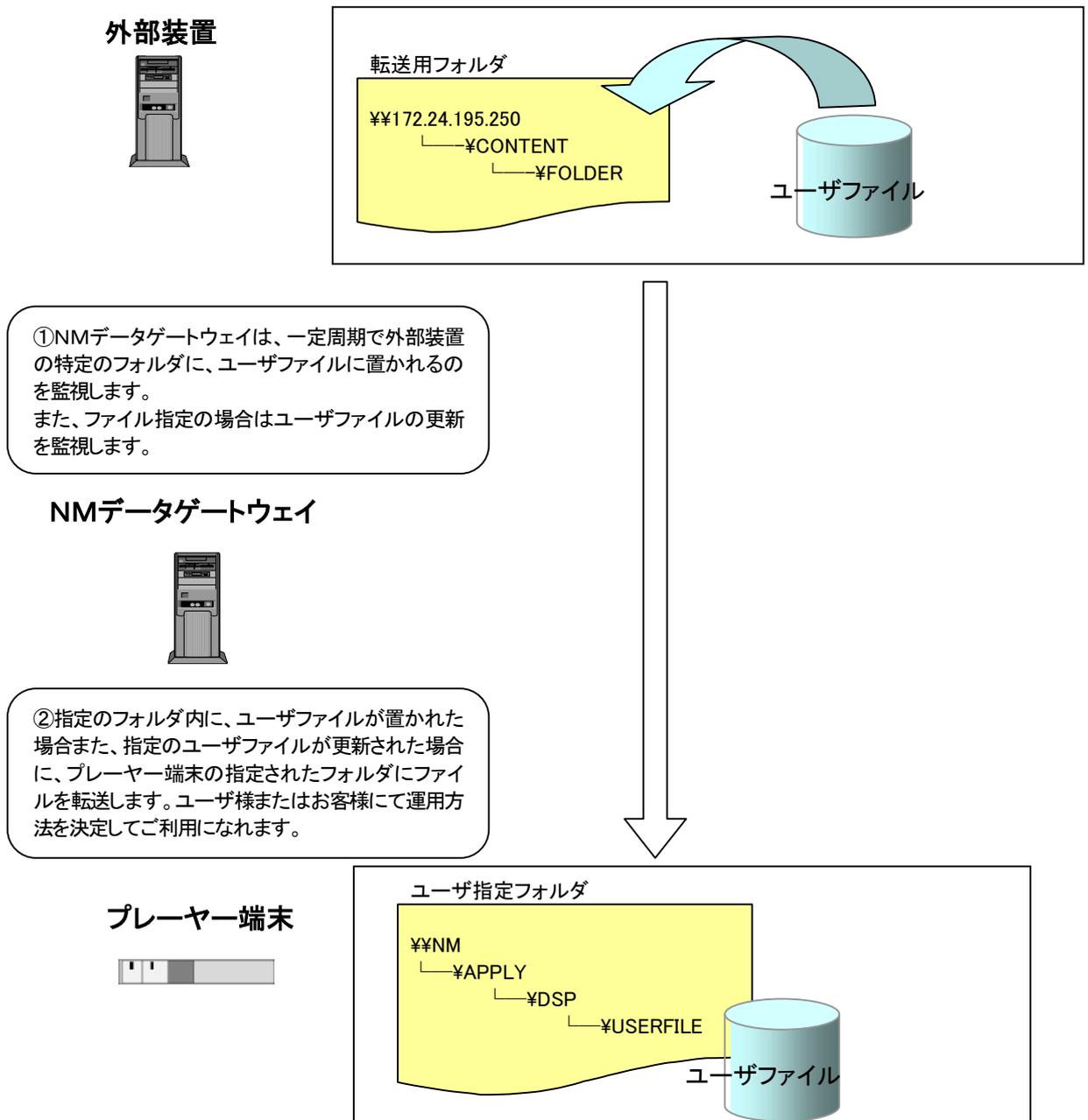
以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、データの更新に関係なくデータベースからデータを読み込み、指定されたプレイヤー端末に配信します。

### 3.5.3 ファイル転送機能

#### 1) ファイル転送処理概要

外部装置より取り込んだ、ファイルを変更することなく指定されたプレーヤー端末のフォルダに配信します。また、取り込みには転送フォルダを指定する場合と、1つのファイルを指定する方法があり、前者はフォルダ内の全ファイルが転送され、後者は指定されたファイルのみ転送されます。ファイルは、プレーヤー端末内の指定フォルダに配信されますので、運用に合わせて定義してください。



## 2) ファイルサーバーからの取得(ファイル指定)

ここでは、ファイルサーバーからユーザファイルを1つのみ転送する具体的な操作手順を説明します。

### ①アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。

外部装置のファイルサーバーからユーザファイルを取得する場合の入力例を記します。  
各設定情報の詳細に関しては、【4 .2 .1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『File』を選択します。
②		アクセス ID	005 を入力します。 001 - 500 の範囲で未使用の番号を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。 チェック無しではデータ取得されません。
④		適用時間	チェック状態にすると、サーバー上ファイルの更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。 初期状態(チェック無し)の場合、24 時間指定となります。

	入力項目	設定例	補足説明	
⑤	アクセス情報	サーバー	共有フォルダから転送するユーザファイルのフルパスを記述します。 (例) ¥¥172.24.195.250¥content¥folder¥sampl e.jpg	
⑥		ポート	無し	
⑦		アカウント/パスワード	無し	
⑧		周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒	
⑨		タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報	種別	ファイルを選択します。	
⑪		データ種別	ファイルを選択します。	
⑫	出力情報	種別	ファイルを選択します。	
⑬		ファイル	プレーヤー端末の転送先フォルダ名称を設定します。 特に指定がない場合は、「¥NM¥APPLY¥DSP¥USERFILE」を設定します。	予めプレーヤー端末に設定したフォルダを登録します。
⑭	配信先情報	種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレーヤー端末に配信します。 グループ: ユーザグループ配下の全てのプレーヤー端末に配信します。 個別: プレーヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。	

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、ユーザファイルが更新されているどうかをチェックします。ユーザファイルが更新されている場合はそのユーザファイルを読み込み、指定されたプレーヤー端末に配信します。

### 3) ファイルサーバーからの取得(フォルダ指定)

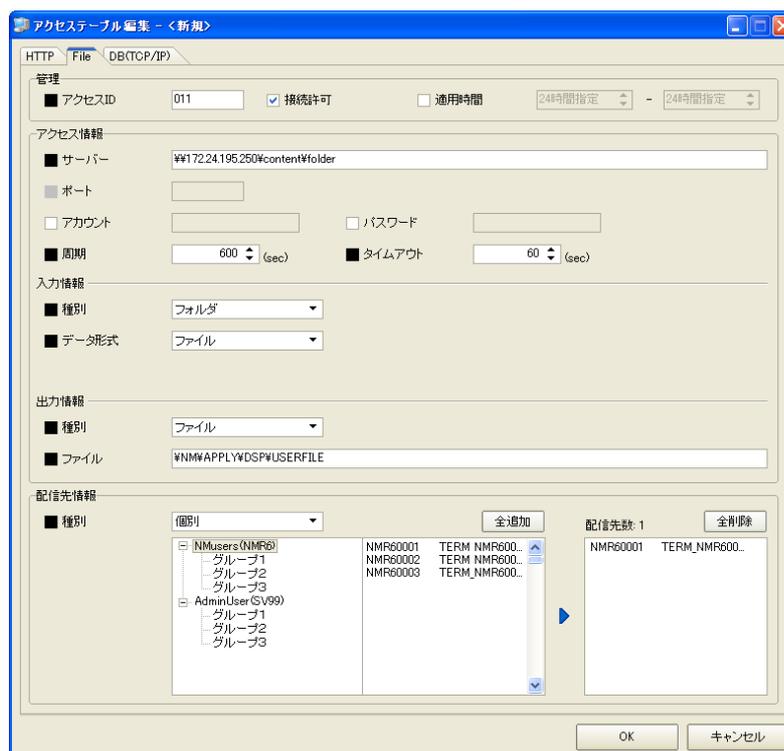
ここでは、ファイルサーバーから複数のユーザファイルを転送する具体的な操作手順を説明します。

#### ①アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。



外部装置のファイルサーバーからユーザファイルを複数取得する場合の入力例を記します。  
各設定情報の詳細に関しては、【4.2.1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『File』を選択します。
②		アクセス ID	006 を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。
④		適用時間	チェック状態にすると、サーバー上ファイルの更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態で結構です。
⑤	アクセス情報	サーバー	共有フォルダから転送するユーザファイルのフォルダパスを記述します。 (例)¥¥172.24.195.250¥content¥folder
⑥		ポート	無し

	入力項目	設定例	補足説明
⑦	アカウント/パスワード	無し	
⑧	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒	
⑨	タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報	種別	フォルダを選択します。
⑪		データ種別	ファイルを選択します。
⑫	出力情報	種別	ファイルを選択します。
⑬		ファイル	プレーヤー端末の転送先フォルダ名称を設定します。 特に指定がない場合は、「¥NM¥APPLY¥DSP¥USERFILE」を設定します。
⑭	配信先情報	種別	ユーザ: 同一ユーザ配下の全てのプレーヤー端末に配信します。 グループ: ユーザのグループ配下の全てのプレーヤー端末に配信します。 個別: プレーヤー端末を個別に設定します。(複数端末設定可能) 例) 個別を選択し、特定端末をダブルクリックします。

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

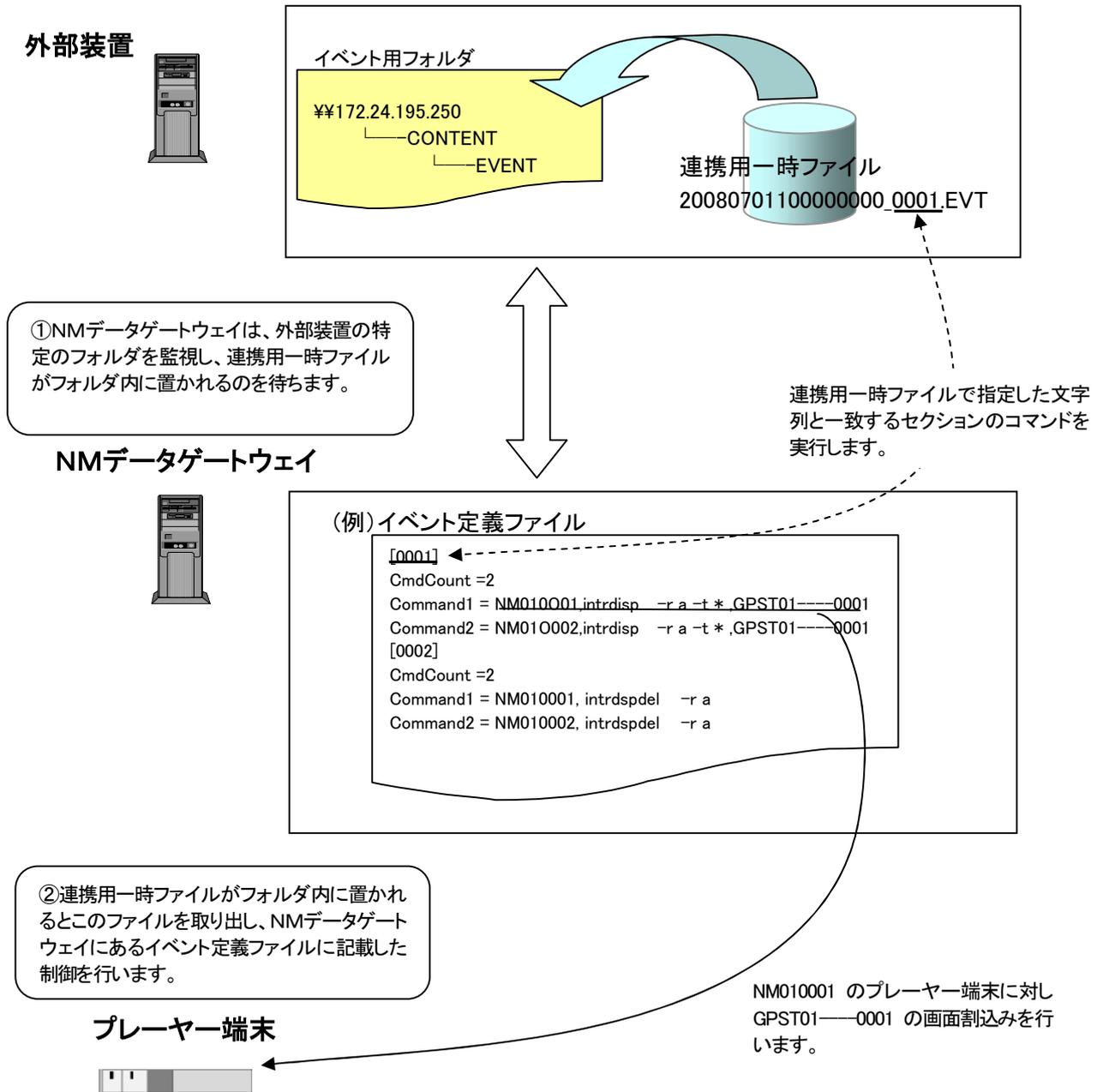
以上の操作で終了です。

NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、更新に関係なくユーザファイルを読み込み、指定されたプレーヤー端末に転送します。

### 3.5.4 イベントドリブン機能

#### 1) イベントドリブン機能概要

外部装置より取り込んだ、連携用一時ファイルを解析し、予め設定したイベント定義ファイルに基づいて、プレーヤー端末の制御を行います。



## 2) イベント ドリブン機能

ここでは、イベント ドリブン機能の具体的な操作手順を説明します。

### ①アクセス先情報の登録を行います。

「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。

ログイン画面が表示されますので、管理サーバーをインストールした際に登録したログイン名・パスワードを入力します。

アクセステーブル画面より、「ファイル」→「新規登録」を選択し、編集画面を表示します。

外部装置のファイルサーバーから連携用一時ファイルを取得する場合の入力例を記します。  
各設定情報の詳細に関しては、【4 .2 .1 アクセス先情報を登録する】をご参照ください。

	入力項目	設定例	補足説明
①	管理	タブの選択	『File』を選択します。
②		アクセス ID	007 を入力します。
③		接続許可(チェックボックス)	チェック状態(レ)にします。
④		適用時間	チェック状態にすると、連携用一時ファイルの更新確認の適用時間を指定できます。 時間指定しない場合は、初期状態(チェック無し)の状態です。
⑤	アクセス情報	サーバー	共有フォルダのイベントのフォルダパスを記述します。 (例) ¥¥172.24.195.250¥content¥event
⑥		ポート	無し

	入力項目	設定例	補足説明
⑦	アカウント/パスワード	無し	
⑧	周期	ファイルを読み出す周期を入力します。 ※初期設定値は 600 秒	
⑨	タイムアウト	ファイルのデータを読み込むまでの完了時間を設定します。 ※初期設定値は 60 秒	
⑩	入力情報	種別	フォルダを選択します。
⑪		データ種別	イベントを選択します。
⑫	出力情報	種別	イベントを選択します。
⑬		ファイル	プレーヤー端末の転送先フォルダ名称を設定します。 特に指定がない場合は、「¥NM¥APPLY¥DSP¥USERFILE」を設定します。
⑭	配信先情報	種別	イベント定義ファイルに記述された端末を制御します。配信先の設定はできません。

全ての情報を設定後に『OK』ボタンをクリックすると設定された内容が保存され、外部装置への接続処理が開始されます。

以上の操作で終了です。

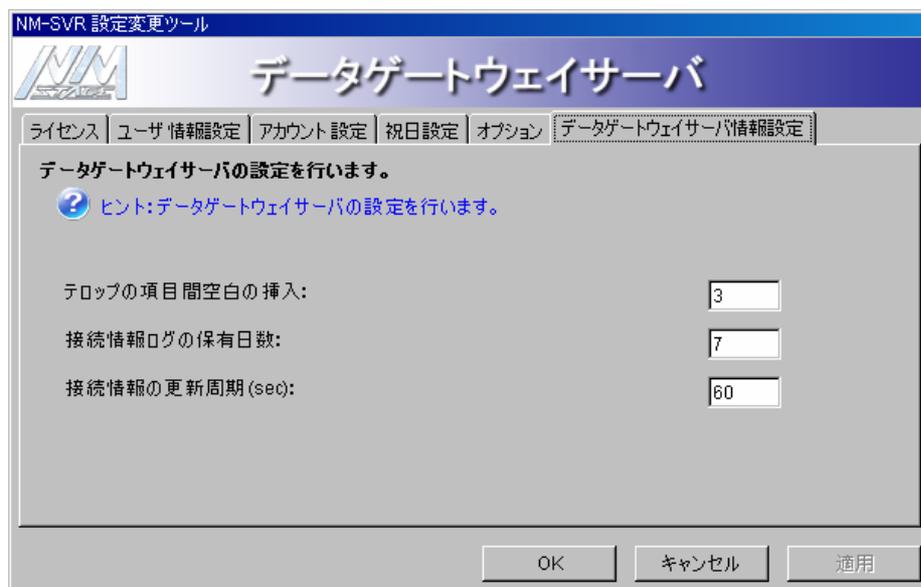
NMデータゲートウェイは、設定された周期に基づいて、外部装置に定期的に接続を行い、指定フォルダ内の連携用一時ファイルを検知し、指定されたイベントに定義されたコマンドを実行します。

# 4 機能詳細

## 4.1 設定変更

NMデータゲートウェイの設定をお客様の運用に合わせて変更することが可能です。  
NM-SVR 設定変更ツールから、以下の操作で設定を変更してください。

**STEP 1** 「スタート」→「全てのプログラム(P)」→「NMstage」→「NM-SVR設定変更」を選択します。



### ●入力項目の内容

項目	説明
テロップの項目間空白の挿入	RSS 等のデータをテロップとして利用する際に、各データの区切りを明確にするための空白を任意に設けることができます。 ※0 - 100 バイト(デフォルト 3 バイト)の範囲で設定します。
接続情報ログの保有日数	アクセス先の処理についてログを保有するログ日数を指定します。 ※1 - 7 日(デフォルト 7 日)までの範囲で設定します。
接続情報の更新周期	接続時の状況を、ファイルに出力する際の更新周期を設定します。 操作端末のアクセス状態監視画面の更新周期を変更することができます。 ※1 - 3600 秒(デフォルト 60 秒)の範囲で設定します。

注意！！

- アクセス状態監視画面の更新周期は、接続情報の更新周期の他に、操作端末のアクセス状態監視画面の更新周期(60 秒)また、外部装置への接続周期(任意設定)によって変わります。

**STEP 2** 設定が完了したら『OK』をクリックしてください。

**STEP 3** NMデータゲートウェイの機能を有効にするには、マシンを再起動してください。

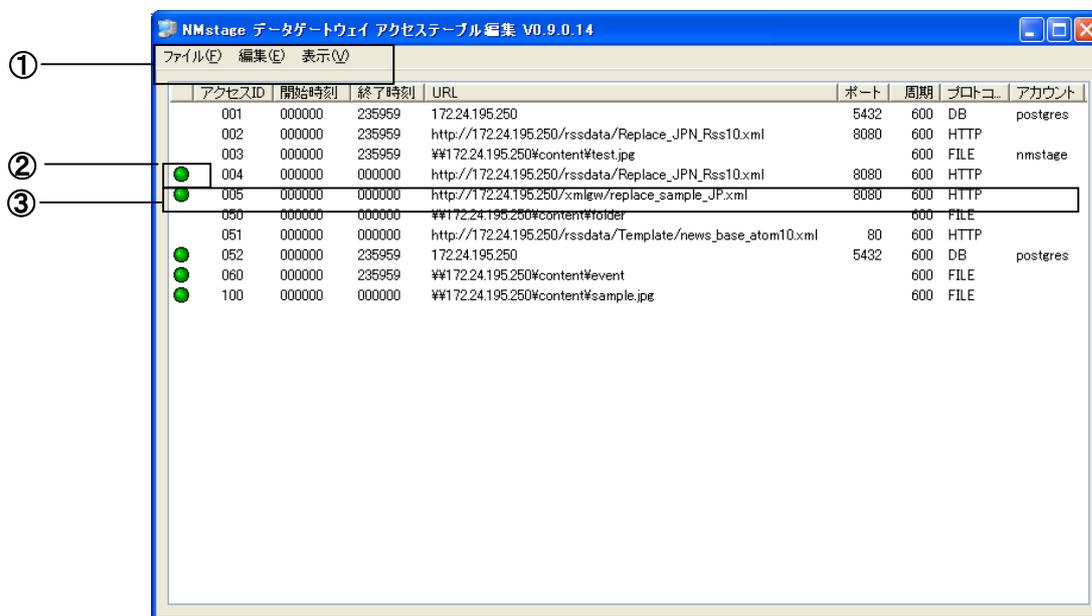
## 4.2 アクセス先情報登録

本章では、NMデータゲートウェイが接続及び、アクセス先からのデータの取得、変換を行うための情報を登録、編集する機能について説明します。

### 4.2.1 アクセス先情報を登録する

NMデータゲートウェイのライセンスが登録されている必要があります。

**STEP 1** 「スタート」→「プログラム」→「NMstage」→「アクセステーブル編集」を選択します。  
アクセステーブル編集プログラムが起動し、アクセステーブル画面が表示されます。



#### ●画面説明

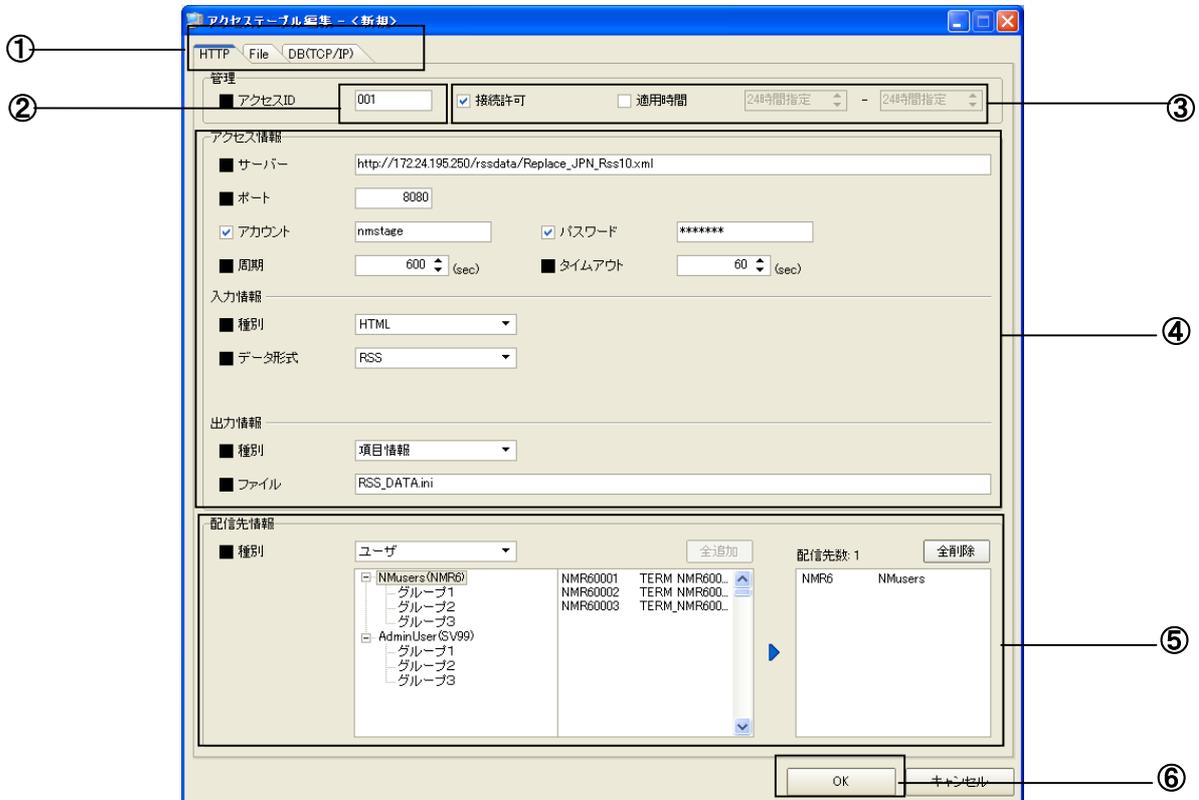
項番	説明
①	アクセステーブル編集プログラムの操作メニューです。各種操作を呼び出せます。
②	アクセス先の運用状態を示します。丸印がある場合、該当のアクセス先は接続許可状態にあります。
③	選択中のアクセス先に対して、右クリックで操作メニューが呼び出せます。

**STEP 2** アクセステーブル編集画面を表示します。

メニューバー : メニューバー→「ファイル」→「新規登録」を選択します。

右メニュー : 右クリック→「新規登録」を選択します。

ショートカット :  +  を押します。



**STEP 3** 登録したい情報先の種別に応じたタブを選択します。(①)

参考

- アクセス ID、接続許可チェック、適用時間及び、配信先情報は、アクセス先種別(タブページ)間で設定が共有されます。

**STEP 4** アクセス ID を設定します。半角数字 3 桁を入力してください。(②)

参考

- ID を付与できる範囲は 001 - 500 です。

**STEP 5** 接続許可チェック設定及び、適用時間を設定します。(③)

参考

- 接続許可されたアクセス先は、一覧画面上で最左列に●が表示されます。

注意！！

- 同時に接続許可できるアクセス先数は、10 件までです。

**STEP 6** アクセス先の情報を設定します。(4)

項目	内容説明	入力書式	入力範囲	備考
<b>●サーバー接続情報</b>				
■サーバー	接続サーバーのアドレスなど	全半角文字	半角256文字相当 ※特殊文字制限あり	※設定内容は、サーバー種別により異なります、下記参照のこと。 ポート番号は、接続ポート番号に明示的に入力してください。
■ポート	接続ポート番号	数値	1024 - 65535	httpの場合のみ80も可能です。
■アカウント	接続ログインアカウント	半角文字	半角40文字	
■パスワード	接続ログインパスワード	半角文字	半角40文字	
■周期	指定アクセス先へソースの取得周期	数値	30 - 86400秒	※タイムアウト時間は、周期より小さい値である必要があります。
■タイムアウト	取得処理に対する応答タイムアウト時間	数値	10 - 3600秒	
<b>●入力情報</b>				
サーバー種別が「HTTP」またはFILE(NetBIOS)」の場合				
■種別	入力情報の種別	選択式		
■データ形式	入力情報のデータ形式	選択式		
サーバー種別が「DB(TCP/IP)」の場合				
■DB名	データベースの名称	半角文字	半角100文字相当	DB名を“で囲んでください。
■DBテーブル名	抽出テーブルの名称	半角文字	半角50文字相当	DBテーブル名を“で囲んでください。
■DBカラム名	抽出カラム名	半角文字	半角50文字相当	カラム名を“で囲んでください。
■DBキー名	抽出キー名	半角文字	半角50文字相当	キー名を“で囲んでください。
■DB文字種別	データベースの文字コード種別	選択式	EUC-JP UTF-8	使用している文字コードについては、DB側の設定をご確認ください。
<b>●出力情報</b>				
■種別	出力情報種別	選択式		
■ファイル	出力情報ファイルパス名	全半角文字	半角100文字相当 ※特殊文字制限あり	※設定内容は、種別により異なります、下記参照のこと。
<b>●配信先情報</b>				
■種別	配信先の種別を指定	選択式	ユーザ毎・グループ毎・端末毎	
■配信先	配信先のユーザ・グループ・プレーヤー端末を個々に指定	選択式	ユーザ/グループ指定は1つのみ選択 プレーヤー端末は100台まで登録可能	

#### 参考

- サーバーまたは、出力情報ファイル名/パス名のファイル・パス名に特殊文字を使用している場合、警告が表示され登録できません。

パス名には次の文字を使用できません。

\* (アスタリスク) ? (クエスチョン) " (ダブルコーテーション) < (等符号) > (等符号) | (縦線)

ファイル名には、上記に加えて次の文字も使用できません。

¥ (円記号) \ の ” 半角 ” (バックslash) / (slash) : (コロン)

また、上記以外で特殊な制御文字なども使用できません。

#### ポイント

- ユーザ毎・グループ毎に配信先を設定している場合に該当のユーザまたグループに新たにプレイヤー端末が追加されると、登録後の最初の監視タイミングから該当プレイヤー端末も配信先に追加されます。

●入力情報設定について

サーバー種別	取得可能なソースファイルの種別	入力情報設定値	備考
WEB サーバー /HTTP サーバー	RSS ファイル	RSS ファイルの HTTP パス 例) http://panasonic.co.jp/rssdata/news001.xml	
	XML ファイル	Xml ファイルの HTTP パス 例) http://panasonic.co.jp/xml/stick001.xml	
	コンテンツファイル	コンテンツファイルの HTTP パス 例) http://panasonic.co.jp/content/sample001.jpg	単一ファイルコンテンツのみ
ファイル共有サーバー	XML ファイル	Xml ファイルのネットワークパス 例) ¥¥172.24.195.250¥xml¥stick001.xml	
	コンテンツファイル	コンテンツファイルのネットワークパス 例) ¥¥172.24.195.250¥content¥sample001.jpg	単一ファイルコンテンツのみ
	イベント	イベントファイルのネットワークフォルダパス 例) ¥¥172.24.195.250¥event¥degi2008	指定フォルダ直下の全てのファイルが対象となります。
	ユーザファイル	ファイルのネットワークパス 例) ¥¥172.24.195.250¥file¥daytopic.txt または、ネットワークフォルダパス 例) ¥¥172.24.195.250¥file¥topics	
データベースサーバー (TCP/IP)	DB 情報	データベースサーバーのアドレス 例) 172.24.195.250	

●入カソースについて

ソース種別	取得可能なソースファイルの種別	備考
RSS ファイル	RSS1.0、RSS2.0、ATOM1.0 形式の XML ファイル	
XML ファイル	専用フォーマットの XML ファイル	
コンテンツファイル	NM コンテンツ(JPEG・BMP・MPEG・WMV 等)でサポートする画像、コンテンツファイル	単一ファイルコンテンツのみ
ユーザファイル	HTML、Flash コンテンツなどが参照する固定ファイルなど、ユーザ様またはお客様にて使用方法を規定したファイル。	
連携用一時ファイル	プレーヤー端末を制御する内容を記述した専用ファイル。	
DB 情報	データベーステーブルの行情報。	PostgresSQL Version8.2.5 にて確認済み。

●出力情報設定について

出力情報種別	ソースファイル種別	出力情報設定値	備考
項目情報コンテンツ	RSS ファイル	項目情報コンテンツ名 例) item001.ini	拡張子が「.ini」である必要があります。
	XML ファイル		
	DB 情報		
NM コンテンツ (通常/テロップ)	RSS ファイル	NM コンテンツ ID(14 桁コード) 例) GPNM01----0001	
	コンテンツファイル		
イベント	イベント	設定不可、定義ファイルの固定値を使用。	
ユーザファイル	ユーザファイル	配信先プレーヤー端末上の配信(転送)パス 例) ¥NM¥APPLY¥DSP¥USERFILE	指定のフォルダがプレーヤー端末上に存在している必要があります。

注意！！

- XML ファイルのご利用につきましては、本ソフトウェア購入先の販売店にお尋ねください。

●外部装置からのデータ取得の補足事項について

外部装置	ソースファイル種別		補足事項取得
Web サーバー	HTML	RSS ファイル XML ファイル	Web サーバーでは、HTTP プロトコルの“If-Modified-Since”を利用して、ソースが更新された場合にのみデータ取得を行います。更新がない場合にはデータを取得しません。Web サーバーにて、“If-Modified-Since”の更新確認ができない場合には毎回取得します。
	ファイル	NM コンテンツ ユーザファイル	
ファイル サーバー	ファイル	ユーザファイル NM コンテンツ XML ファイル	ファイルの更新日付を確認し、更新された場合にファイルを取得します。
	フォルダ	ユーザファイル	ユーザファイルを取得すると、取得先のユーザファイルを削除します。取得先のユーザファイルが削除できない場合には、接続の周期に合わせて毎回ファイル取得を実行します。
		イベント	連携用一時ファイルを取得すると、取得先のイベントファイルを削除します。取得先の連携用一時ファイルが削除できない場合には、接続の周期に合わせて毎回制御を実行します。
DB サーバー	DB 情報		接続の周期に合わせて毎回情報更新します。

●外部装置とデータ組合せ詳細

外部装置	ソースファイル種別		出力情報種別	出力情報	出力情報補足
Web サーバー	HTML	RSS ファイル	項目情報	項目情報 コンテンツ名	<b>■項目情報コンテンツ名</b> 拡張子が「.ini」となるファイル名です。 例) item001.ini  <b>■NM コンテンツ ID(14 桁コード)</b> 例) GPNM01----0001  <b>■フォルダパス</b> 配信先プレーヤー端末上の配信(転送)パス ※プレーヤー端末上に存在するパスを指定してください。 例) ¥NM¥APPLY¥DSP¥USERFILE
			NM コンテンツ	※1 NM コンテンツ ID	
	XML ファイル	項目情報	項目情報 コンテンツ名		
	ファイル	NM コンテンツ	NM コンテンツ	NM コンテンツ ID	
ファイル サーバー	ファイル	ユーザファイル	ファイル	フォルダパス	
		ユーザファイル	ファイル	フォルダパス	
		XML ファイル	項目情報	項目情報 コンテンツ名	
	フォルダ	ユーザファイル	ファイル	フォルダパス	
		イベント	イベント	フォルダパス	
DB サーバ ー	DB 情報		項目情報	項目情報 コンテンツ名	

参考

- NM コンテンツ ID については、操作端末のコンテンツ画面の詳細表示などで確認できます。

注意！！

- ユーザファイルを用いる場合、出力先として指定するフォルダは、全ての配信先のプレーヤー端末上に存在している必要があります。指定のフォルダが存在しない場合、配信(転送)処理は失敗します。
- XML ファイルのご利用につきましては、本ソフトウェア購入先の販売店にお尋ねください。

**STEP 7** 配信先を選択します。(⑤)

ユーザ配下の全端末に配信する場合、対象の「ユーザ」を、グループ配下の全端末に配信する場合は、対象の「グループ」を選択しリストアップしてください。配信先の端末を個別に設定する場合は、対象の端末を続けて選択しリストアップしてください。

**STEP 8** 『OK』(⑥)をクリックすると、アクセス先情報が登録されます。

## 参考

- 既に同じアクセス ID が登録されている場合、登録できません。また、「接続許可」にチェックしている場合、必要なアクセス先情報が設定されないと登録は行われません。
- 出力情報種別が「通常コンテンツ」である場合、出力情報ファイル部に設定されるコンテンツ ID で指定されるコンテンツが予め登録されている必要があります。また、登録されている通常コンテンツと「サーバー」情報部で設定されたコンテンツの種別が一致していない場合、警告メッセージが表示されます。
- 出力情報種別が「テロップコンテンツ」である場合、出力情報ファイル部に設定されるコンテンツ ID で指定されるテロップコンテンツが予め登録されている必要があります。コンテンツ ID が一致しない場合、登録処理は行われません。
- 出力情報種別が「通常コンテンツ」または、「テロップコンテンツ」である場合、配信先リストに「ユーザ」または「グループ」を設定している場合、選択している配信先の「ユーザコード」部が出力情報ファイル部に設定したコンテンツ ID の「ユーザコード」と一致する必要があります。配信先リストに「端末」を選択している場合は、「ユーザコード」を含むコンテンツ種別の全体が一致している必要があります。一致しない場合、登録処理は行われません。
- 出力情報種別が項目情報の時、他のアクセス先情報の設定で出力(配信)先として同じファイル名が使用されている場合、警告メッセージが表示されます。これは、同一ファイル名の場合、配信先プレーヤー端末の保存先でファイルが上書きされてしまうためです。意図して上書きさせることもできますが、通常は行わないでください。
- 出力情報種別がユーザファイルの時、他のアクセス先情報で設定した出力(配信)先と同じフォルダを指定することができます。但し、配信されるファイルに同一名称のファイルがある場合、後から配信されたファイルで上書きされますのでご注意ください。

## 4.2.2 アクセス先情報を変更する

**STEP 1** アクセステーブル画面を表示します。表示方法については、「登録」時の説明をご参照ください。**STEP 2** 編集対象のアクセス先行を選択し下記の操作を行うとアクセス先編集画面を表示します。

- メニューバー : メニューバー→「編集」→「編集」を選択します。  
右メニュー : 右クリック→「編集」を選択します。  
ショートカット :  +  を押します。

## 参考

- 複数の行を選択している場合、編集操作は行えません。

**STEP 3** アクセス先情報の変更を行い、登録を行います。登録の方法は、新規登録時と同じです。

## 参考

- アクセス先種別及び、アクセス ID の変更はできません。

### 4.2.3 アクセス先情報を削除する

**STEP 1** アクセステーブル画面を表示します。表示方法については、「登録」時の説明をご参照ください。

**STEP 2** 削除対象のアクセス先行を選択し下記の操作を行うと確認画面が表示され削除されます。

メニューバー : メニューバー→「編集」→「削除」を選択します。

右メニュー : 右クリック→「削除」を選択します。

ショートカット :  を押します。

## 4.3 項目情報コンテンツの登録

本章では、NMデータゲートウェイで利用できる項目情報コンテンツ登録について説明します。一度登録した項目情報コンテンツの編集及び削除はその他のコンテンツと同様の処理手順となります。  
また、他コンテンツの登録についても、【管理サーバー 取扱説明書(操作編)】をご参照ください。

### 4.3.1 項目情報コンテンツを登録する

NMデータゲートウェイのライセンスが登録されると、コンテンツ編集画面上で項目情報を入力するためのタブが表示されるようになります。

注意！！

- プレーヤー端末に表示する情報を取得する外部装置を選び、必要な情報が項目情報コンテンツに変換されるようアクセス可能な編集プログラムにて事前に設定されている必要があります。

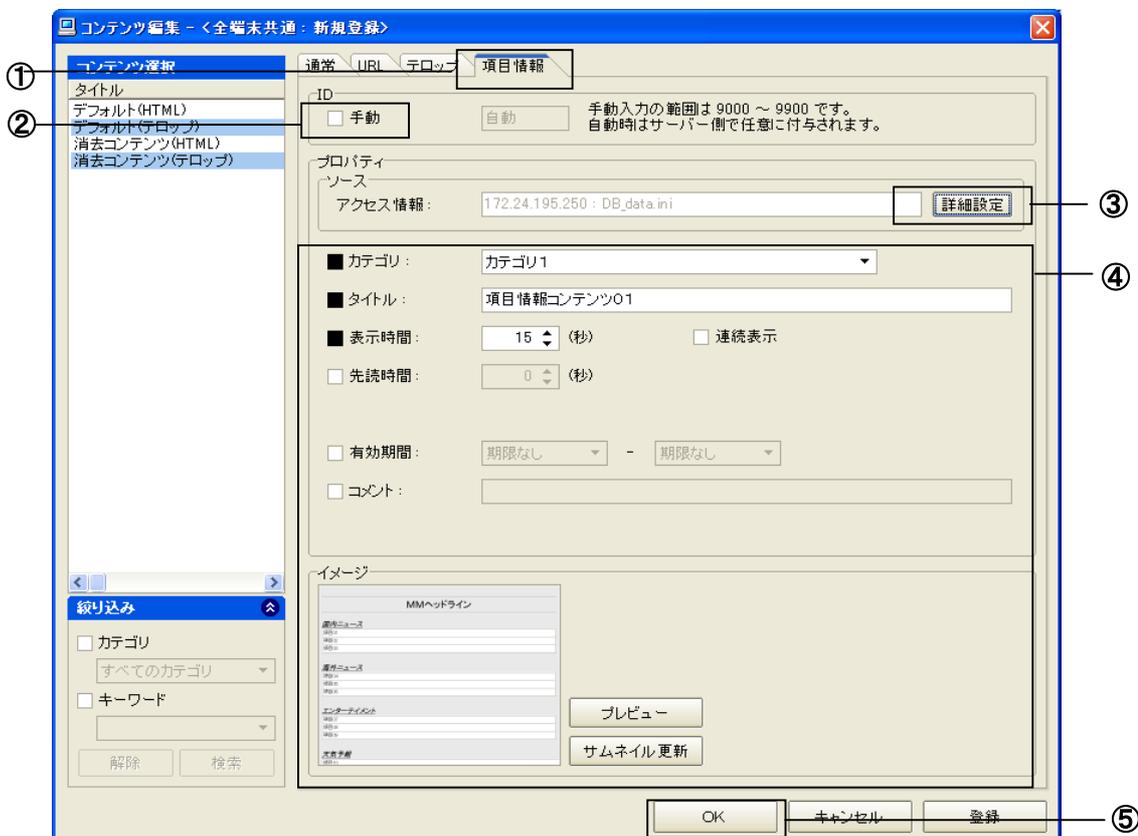
**STEP 1** 端末選択にて、登録する端末を選択します。  
(共通コンテンツの登録の場合、「全端末共通」を選択します。)

**STEP 2** コンテンツ編集画面を表示します。

メニューバー : メニューバー→「ファイル」→「新規登録」を選択します。

アイコン : 新規登録アイコンをクリックします。

ショートカット : **Ctrl** + **N** を押します。



**STEP 3** 項目情報の登録には、『項目情報』(①)を選択します。

**STEP 4** 初期設定では ID を自動付与しますので、操作の必要はありません。  
 特定の ID を付与したい場合は、「手動」チェックボックスを選択し、半角数字 4 桁を入力して  
 ください。(②)

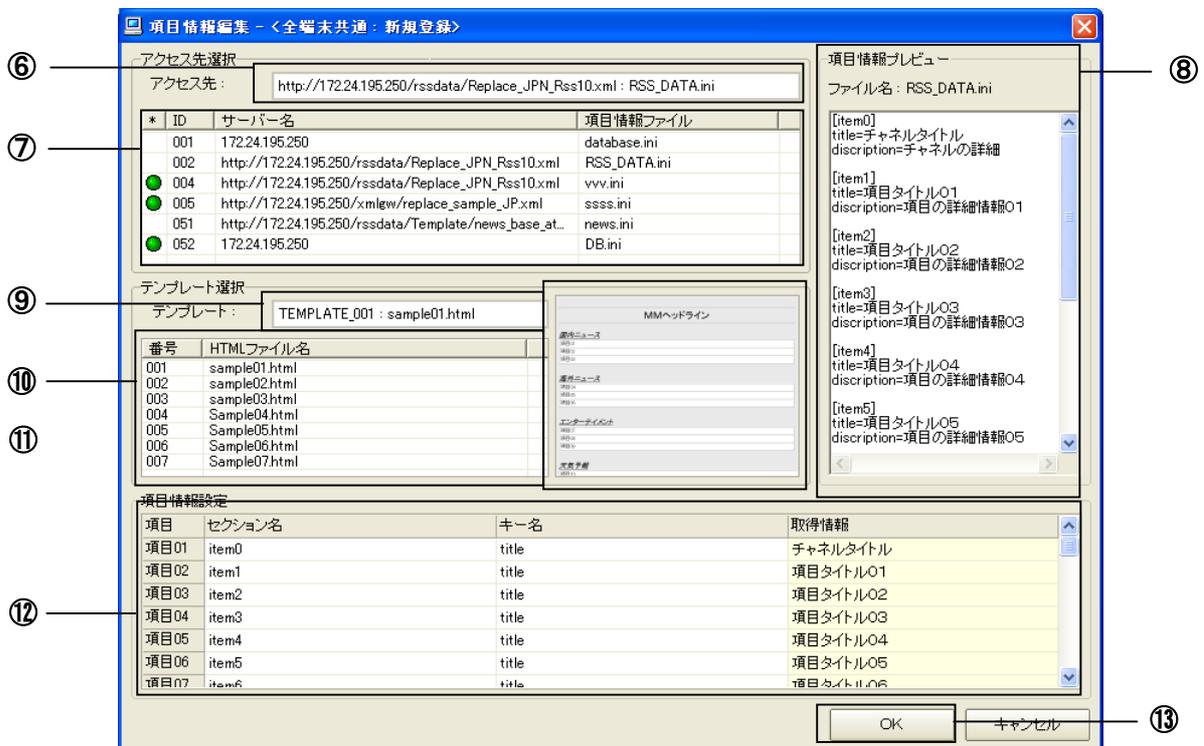
参考

- ID を手動付与できる範囲は 9000～9900 です。

注意！！

- 登録できるコンテンツ数は全部で 10,000 ですが、ID を自動付与できる範囲は 0000 - 8999 です。それ以上のコンテンツを自動付与で登録しようとすると、エラーメッセージが表示されますので、不要なコンテンツを削除、または手動で ID を付与してください。

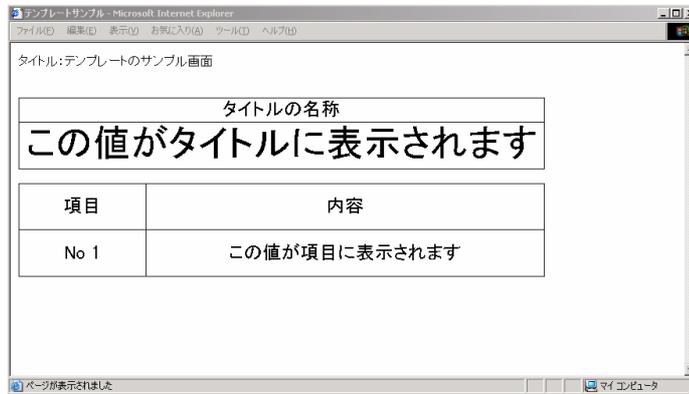
**STEP 5** 項目情報の詳細設定画面を表示します。  
 「詳細設定」ボタンをクリックしてください。(③)



項目	説明
アクセス先選択	選択されているアクセス先が表示されます。
アクセス先一覧	出力種別が項目情報のアクセス先一覧が表示されます。 左端の●マークは、そのアクセス先が現在使用状態にあることを示しています。
項目情報プレビュー	アクセス先一覧で選択した項目情報ファイルの内容をプレビューします。 但し、アクセス先から項目情報を取得していない場合、プレビュー欄には「Not Found」と表示されます。
選択テンプレート情報	選択されているテンプレートの情報が表示されます。
テンプレート一覧	NM-SVRIに登録されているテンプレート画面の一覧を表示します。テンプレート画面はインストール時に10種類登録され、ユーザ様またはお客様にて任意に編集することができます。(詳細は本書の「応用編」をご参照ください) 行を選択することで、右側にサムネイルが表示されます。(⑩)
項目情報設定	項目情報に設定したセクション名・キー名が一覧表示されます。 項目情報設定は20個まで設定可能となっています。

	<p>注意！！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セクション名・キー名は、項目情報コンテンツの内容より選択し登録します。アクセス先のサーバー・DBなどによりセクション名・キー名が変更になります。</li> </ul>
--	--

(例)画面例



**STEP 6**

項目情報の詳細を設定します。

アクセス先一覧(⑦)の中からアクセス先をダブルクリックすることでアクセス先が選択され、アクセス先欄(⑥)に表示されます。

テンプレート一覧(⑩)の中からテンプレート情報をダブルクリックすることでテンプレートが選択され、テンプレート選択欄(⑨)に表示されます。

置換対象となる各項目情報のセクション名、キー名を設定して行きます。(⑫)

『OK』(⑬)をクリックすると詳細設定画面が閉じコンテンツ登録画面に戻ります。

参考

- アクセス先のデータ形式・RSS・DB 等により、項目情報に設定できるセクション名、キー名の値は異なります。詳しくは「**応用編**」をご参照ください。

**STEP 7**

プロパティを設定します。(④)

項目	説明
■カテゴリ	コンテンツ分類上のカテゴリを選択します。設定内容は絞り込み表示のカテゴリに反映されません。
■タイトル	任意のタイトルを入力します。タイトルは絞り込みキーワードの検索対象になりますので、コンテンツ画面でキーワードによる選択表示ができます。 既に登録されているタイトル名を使用することはできません。同一ユーザ内での共通コンテンツならびに個別コンテンツのタイトル名は、重複しないように設定してください。 注意！！ <ul style="list-style-type: none"> <li>既に削除したコンテンツと同じタイトルで登録しようとしてエラーダイアログが表示される場合は、【6 トラブルシューティング】をご参照ください。</li> </ul>
■表示時間(秒)	初期値は、15秒で表示されます。任意のコンテンツ表示時間を秒単位で入力することも可能です。設定が可能な最小値は10秒です。
<input type="checkbox"/> 連続表示	コンテンツを連続して放映します。チェックすると、表示時間が入力不可となります。
<input type="checkbox"/> 先読設定(秒)	コンテンツを、表示開始のタイミングで表示させるために予め表示準備させておくリード時間を設定します。URLコンテンツなど、表示に時間がかかるコンテンツに設定します。先読時間を指定することで、バックグラウンドで事前に読み込み処理を行うことで、コンテンツをスムーズに表示します。1 - 9秒の範囲で秒数を入力します。

□有効期間設定	<p>初期値では期限無しで表示されます。有効期間を設定する場合は、コンテンツの表示可能期間を開始日、終了日で指定します。</p> <p>注意！！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュールに登録されていても、有効期間外のコンテンツは放映されません。自動的に削除はされませんので、必要ないコンテンツは削除してください。</li> </ul>
□コメント	<p>コンテンツについての説明を入力します。コメントは絞り込みキーワードの検索対象になりますので、コンテンツ画面でキーワードによる絞り込み検索に利用できます。</p>
画面イメージ	<p>画面選択にて選んだテンプレート画面のイメージを表示します。</p>

**STEP 8** 『OK』(⑤)をクリックすると確認画面が表示され、コンテンツが登録されます。

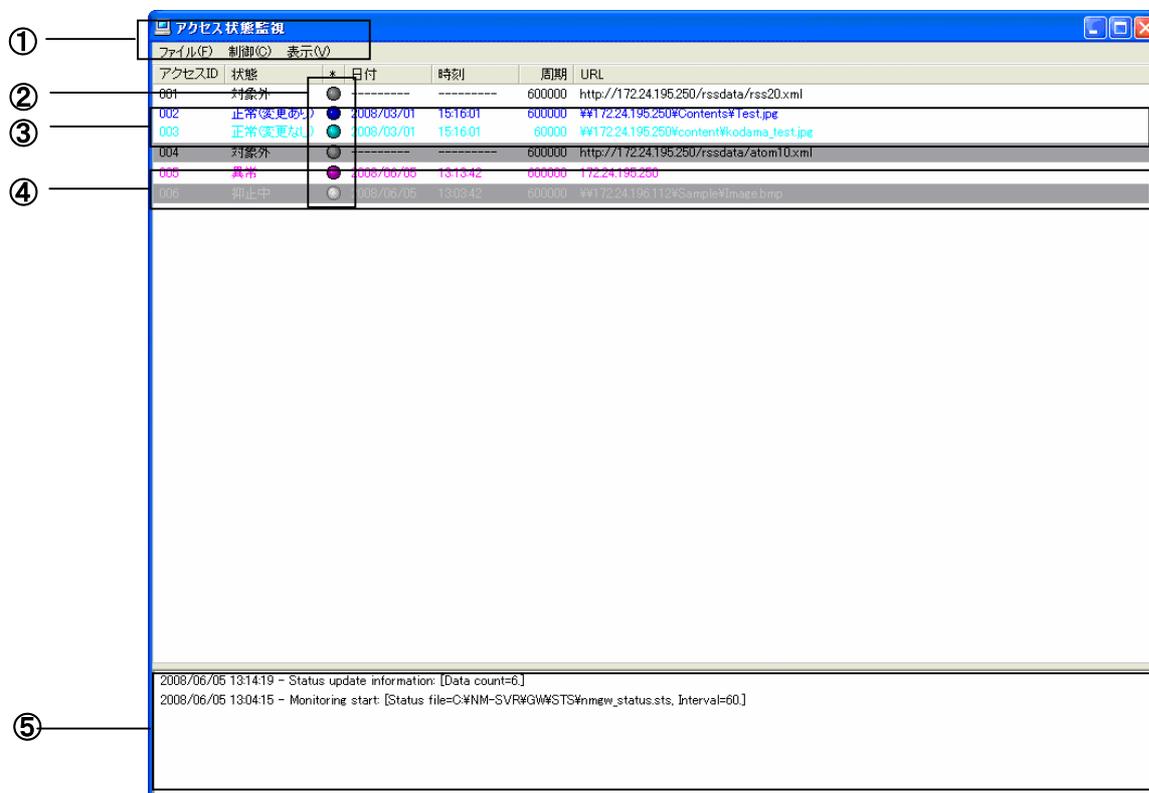
## 4.4 アクセス状態の監視

本章では、外部装置とのアクセス状態の監視機能及び、アクセスの一時接続抑止機能を持つアクセス状態監視プログラムについて説明いたします。

### 4.4.1 アクセス状態を監視する

NMデータゲートウェイのライセンスが登録されると、操作端末の起動ランチャに『アクセス状態監視』ボタンが表示されるようになります。

- STEP 1** 起動ランチャの「アクセス状態監視」ボタンを押下し、監視画面を表示します。  
各アクセス先の情報が状態別色で表示されます。



#### ● 画面説明

項番	説明
①	アクセス状態監視プログラムの操作メニューです。各種操作を呼び出せます。
②	アクセス状態を色別で示します。各色の意味については、下記の表をご参照ください。
③	背景色が灰色の状態はアクセス先が抑止操作中であることを示します。尚、NMデータゲートウェイが実際に接続タイミングで抑止処理を行った場合、文字色が抑止中を示す色に変化します。
④	選択中のアクセス先に対して、右クリックで操作メニューが呼び出せます。
⑤	監視情報や異常を検知した場合にメッセージを表示します。尚、先頭行は最終のステータス取得情報を表示しています。

## ●ステータス表示項目一覧

項目名	説明
アクセス ID	アクセス ID
状態	ステータスチェックの結果を色で表示します。
日付	当該アクセス先に対して最後に更新が行われた日付です。
時刻	当該アクセス先に対して最後に更新が行われた時刻です。
周期	該当アクセス先に接続する周期です。
URL	当該アクセスアドレス。

## ●ステータスの表示色

表示色	運用状態	説明
灰色	抑止中	アクセスを一時的に抑止していることを意味します。
黒色	チェック対象外	アクセスが有効化されていないかアクセス時間外であることを意味します。
青色	正常稼働中(更新あり)	正常稼働中で更新があったことを意味します。
水色	正常稼働中(更新なし)	正常稼働中で更新がなかったことを意味します。
赤色	タイムアウト	タイムアウトが発生したことを意味します。
紫色	異常	何等かの異常が発生していることを意味します。

### 注意！！

アクセス状態監視は、一定周期でアクセス先を参照し、状態を監視画面上に表示しています。したがって、実際にアクセスした結果が監視画面上に表示されるまでには、若干のタイムラグが生じます。

## 4.4.2 アクセス先の接続処理を一時抑止する。

対象アクセス先へのアクセス処理を一時的に行わないようにします。

**STEP 1** アクセス状態監視画面を表示します。

**STEP 2** 対象のアクセス先を選択し、下記の操作を行うと一時抑止されます。

メニューバー : メニューバー→「制御(C)」→「一時抑止(I)」を選択します。

右メニュー : 右クリック→「抑止(I)」を選択します。

ショートカット :  +  を押します。

### 参考

- 一時抑止状態になると、直ちに背景が灰色となります。次に、NMデータゲートウェイが対象アクセス先のアクセスタイミングで抑止状態を検知し、実際の接続を抑止すると文字色が灰色に変化します。

## 4.4.3 アクセスの一時抑止状態を解除する

対象アクセス先への一時抑止状態が解除され、アクセス処理が行われるようになります。

**STEP 1** アクセス状態監視画面を表示します。

**STEP 2** 対象のアクセス先を選択し、下記の操作を行うと一時抑止が解除されます。

メニューバー : メニューバー→「制御(C)」→「抑止解除(L)」を選択します。

右メニュー : 右クリック→「解除(L)」を選択します。

ショートカット :  +  を押します。

#### 4.4.4 全てのアクセス先へのアクセス処理を停止する

全てのアクセス先に対するアクセス処理が行われないようにします。

**STEP 1** アクセス状態監視画面を表示します。

**STEP 2** 下記の操作を行うと接続停止されます。

メニューバー : メニューバー→「制御(C)」→「アクセス停止(T)」を選択します。

ショートカット :  +  を押します。

##### 参考

- 停止状態になると、全行の背景が灰色となります。また一時抑止と同様に、NMデータゲートウェイがアクセス先へのアクセスタイミングで抑止状態を検知し、実際のアクセスを抑止すると文字色が灰色に変化します。

#### 4.4.5 アクセス先への接続処理を再開する

NMデータゲートウェイの処理停止が解除され、アクセス処理を行えるようになります。

**STEP 1** アクセス状態監視画面を表示します。

**STEP 2** 下記の操作を行うとアクセス処理が再開されます。

メニューバー : メニューバー→「制御(C)」→「アクセス再開(R)」を選択します。

ショートカット :  +  を押します。

##### 参考

- アクセス処理が再開されてもアクセス先個別の抑止状態は保持されているため、個別に抑止したアクセス先については、接続を再開しても抑止されたままとなります。

#### 4.4.6 凡例を表示する

アクセス状態監視画面で表示されている色と状態との凡例表を表示します。

**STEP 1** アクセス状態監視画面を表示します。

**STEP 2** 凡例が表示されます。

メニューバー : メニューバー→「表示(V)」→「凡例(L)...」を選択します。



凡例			
アクセス状態			
<input type="checkbox"/>	正常(変更あり)	<input type="checkbox"/>	正常(変更なし)
<input type="checkbox"/>	タイムアウト	<input type="checkbox"/>	異常
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	抑止中
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	対象外

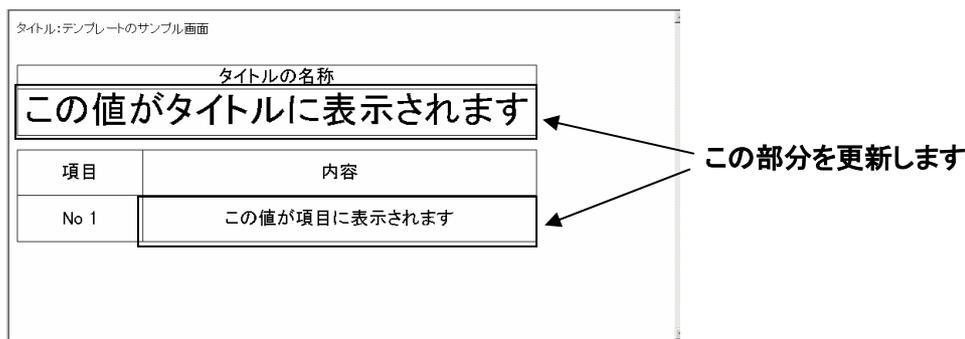
# 応用編

# 5 コンテンツ変換手順

## 5.1 項目情報コンテンツ

### ●項目情報コンテンツとは

HTML コンテンツのデータ部の内容を別のファイルより読み込み、画面の更新無しに値だけを変更するものです。



HTML コンテンツのデータ部に別ファイルから情報を読み込むには、HTML ファイルに①メタ情報と②プログラムを埋め込み、③項目情報コンテンツ(INI ファイル形式で記述されたソース)を配置することで表示できるようになります。

### ①HTML のソースへのメタ情報の埋め込み

```
<html>
<head><meta http-equiv="Content-Language" content="ja"><meta
http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=shift_jis">
<title>テンプレートサンプル</title>
</head>
<body>
.....
<span id="prtd:ITEM1.KEY1">
.....
<span id="prtd:ITEM2.KEY2">
.....
<object classid="clsid:DA7A57D5-12C6-49BE-B150-F9D38854AE01" id="NMitemax">
  <param name="SpecificFile" value="¥NM¥APPLY¥DSP¥ITEM¥FILE_NAME.ini">
  <param name="UserItemReloadInterval" value="3">
</object>
</body>
</html>
```

①INI ファイルの参照箇所をメタ情報で記述します。

③項目情報ファイル(INI ファイル形式で記述されたソース)

②データを更新する際に必要なプログラムの定義です。

### 注意！！

- 項目情報コンテンツを利用するには、プレーヤー端末のソフトウェアが NM-PLR V3.0R05 以降でなければ行けません。

③項目情報ファイル(INI ファイル形式で記述されたソース) (例)FILE\_\_NAME.INI の内容

```
[ITEM1]
KEY1=この値がタイトルに表示されます
[ITEM2]
KEY2=この値が項目に表示されます
[ITEM3]
KEY3=項目3
```

## 5.2 項目情報ファイルについて

項目情報コンテンツが参照する INI ファイル形式で記述されたソースファイルになります。

(例) FILE\_\_NAME.INI

```
[ITEM1]
KEY1=この値がタイトルに表示されます
[ITEM2]
KEY2=この値が項目に表示されます
[ITEM3]
KEY3=項目3
```

本情報は、アクセス先のサーバーから取り込まれる内容により、①セクション名・②キー名が変わります。

運用に合わせて必要な情報を選択し登録してください。

ニュース配信サーバーや WEB サーバーなどより RSS ファイル形式の情報取得した場合また、データベースから取得した際の、項目情報ファイルは次のようになります。

### RSS 1.0の変換

各「channel」エレメントの「title」・「description」情報、及び各「item」エレメントの「title」・「description」情報を先頭より順番に抽出し INI ファイル形式に置き換えます。

※「description」は存在しない場合もあるため、INI ファイル形式に置き換え後のデータにもこのキーがない場合があります。

(例) 変換前 RSS1.0 データ

変換後の項目情報ファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<rdf:RDF
xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#"
xmlns="http://purl.org/rss/1.0/" >
<channel rdf:about="http://.../news.rss">
<title>チャンネルタイトル</title>
<link>http://.../</link>
<description>チャンネルの詳細</description>
</channel>
<item rdf:about="http://.../index.html">
<title>項目タイトル</title>
<link>http://.../index.html</link>
<description>項目の詳細情報</description>
</item>
<item ...>
...
</item>
...
</rdf:RDF>
```

```
[Item0]
Title = チャンネルタイトル
Description = チャンネルの詳細
[Item1]
Title = 項目タイトル
Description = 項目の詳細情報
[Item2]
...
[Item3]
...
```

## RSS 2.0の変換

各「channel」エレメントの「title」・「description」情報、及び「channel」エレメントに含まれる各「item」エレメントの「title」・「description」情報を先頭より順番に抽出しINIファイル形式に置き換えます。

「channel」エレメントの情報でセクション[item0]が生成され、「channel」エレメント内の「item」エレメントの情報にてセクション[item1]～[item?]が生成されます。セクションには、各エレメントの「title」・「description」情報にてキーが生成されます。

※「description」キーは元のエレメントが存在しない場合もあるため、INIファイル形式に「description」キーがない場合があります。

### (例)変換前 RSS 2.0 データ

### 変換後の項目情報ファイル

<pre>&lt;?xml version="1.0"?&gt; &lt;rss version="2.0"&gt;   &lt;channel&gt;     &lt;title&gt;Panasonic News&lt;/title&gt;     &lt;link&gt;http://jp.panasonic.com/&lt;/link&gt;     &lt;description&gt;新製品情報&lt;/description&gt;     ...     &lt;item&gt;       &lt;title&gt;Lumix&lt;/title&gt;       &lt;link&gt;http://jp.panasonic.com/Lumix&lt;/link&gt;       &lt;description&gt;Lumixの新製品をn月発売します。&lt;/description&gt;       &lt;pubDate&gt;Tue, 03 Jun 2003 09:39:21 GMT&lt;/pubDate&gt;     &lt;/item&gt;     ...   &lt;/channel&gt; &lt;/rss&gt;</pre>	<pre>[Item0] Title = Panasonic News Description = 新製品情報 [Item1] Title = Lumix Description = Lumixの新製品をn月発売します。 [Item2] ... [Item3] ...</pre>
---	--

## ATOM 1.0の変換

「feed」エレメント内の「title」または「subtitle」情報、及び各「entry」エレメント内の「title」・「summary」情報を先頭より順番に抽出し INI ファイル形式に置き換えます。「feed」エレメントの情報でセクション[item0]が生成され、以降の「entry」エレメントの情報にて、セクション[item1]～[item?]が生成されます。セクションには、各エレメントの「title」・「summary」情報にてキーが生成されます。

※エレメントは存在しない場合もあるため、INI ファイル形式に置き換え後のデータに、キーがない場合があります。

### (例)変換前 ATOM データ

### 変換後の項目情報ファイル

<pre>&lt;feed xmlns="http://www.w3.org/2005/Atom"&gt; &lt;title&gt;ATOMの構造について&lt;/title&gt; &lt;subtitle&gt;subTitle/subtitle&gt; &lt;id&gt;tag:****, 1995:/info/feed&lt;/id&gt; &lt;link href="http://****"/&gt; &lt;author&gt; &lt;name&gt;Panasonic&lt;/name&gt; &lt;/author&gt; &lt;updated&gt;2003-07-14T12:24:15+09:00&lt;/updated&gt; &lt;entry&gt; &lt;title&gt;ATOM&lt;/title&gt; &lt;link href="http://****"/&gt; &lt;id&gt;tag:****, 2003-03-20:/bass/&lt;/id&gt; &lt;summary&gt;SUMMARY&lt;/summary&gt; &lt;/entry&gt; &lt;entry&gt; ... &lt;/entry&gt; ... &lt;/feed&gt;</pre>	<pre>[Item0] Description = subTitle [Item1] Title = ATOM Description = SUMMARY [Item2] ... [Item3] ...</pre>
--	--

## RSS変換処理でエラーが発生する場合の対処について

RSS変換処理実行時に「other error」「format error」等のエラーが発生した場合の対処について、想定される状況について説明します。

RSS種別	原因	対処方法
共通	RSSの書式がXML形式として、誤っている。	InternetExplorer上で正しく表示されるかを確認してください。
RSS 1.0	「channel」エレメントが存在していない。	「channel」エレメントを1つ配置してください。
	「channel」エレメントが2つ以上存在している。	「channel」エレメントを1つにしてください。
	「channel」エレメント配下に「title」「description」情報が存在していない。	「channel」エレメント内に「title」「description」情報を配置してください。
	「item」エレメントが存在していない。	「item」エレメントを1つ以上配置してください。
	「title」情報が存在しない「item」エレメントが存在している。	全ての「item」エレメントに「title」情報が配置されていることを確認してください。
RSS 2.0	「channel」エレメントが存在していない。	「channel」エレメントを1つ配置してください。
	「channel」エレメントが2つ以上存在している。	「channel」エレメントを1つにしてください。
	「channel」エレメント配下に「title」「description」情報が存在していない。	「channel」エレメント内に「title」「description」情報を配置してください。
ATOM 1.0	「feed」エレメントが存在していない。	「feed」エレメントを1つ配置してください。
	「feed」エレメントが2つ以上存在している。	「feed」エレメントを1つにしてください。
	「feed」エレメント配下に「title」または「description」情報が存在していない。	「feed」エレメント配下に「title」または「description」情報を配置してください。
	「feed」エレメント配下の「entry」エレメント配下に「title」情報が存在していない。	「feed」エレメント配下の「entry」エレメント配下に「title」情報を配置してください。

## データベースの変換

アクセス先情報で登録したデータベースのテーブルから、抽出条件に指定したカラム及びカラム内の値を基に、変換対象となるレコードを検索します。検索結果のレコードからカラム(桁)名称をキーとして、INIファイル形式に置き換えます。

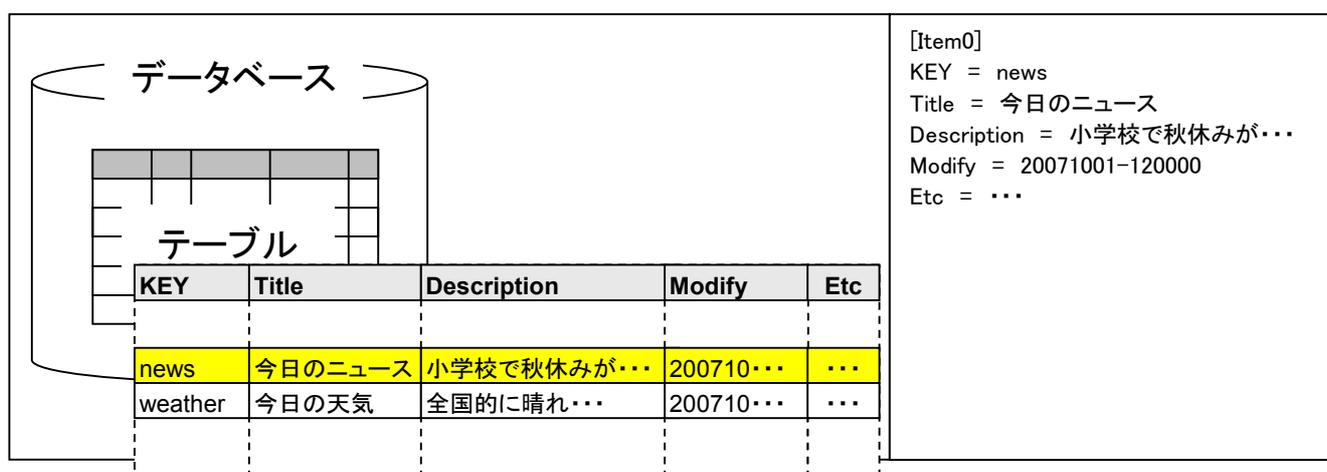
※変換できるレコードは1レコードのみとなりますので、セクションは[item0]1つのみとなります。

※複数レコードが検索された場合は、先頭の1レコード目の情報を変換します。

### (例)データベース情報

### 変換後の項目情報ファイル

※カラム(桁)“KEY“に、抽出の値を”news“で検索した場合の情報



### 注意！！

- アクセス先情報で登録した検索条件で有効なレコードが存在しない場合、項目情報ファイルへの変換処理でエラーとなります。アクセス先情報には有効なレコードが検出できるように検索条件を設定してください。

## 5.3 項目情報登録用のテンプレート HTML について

テンプレート HTML はユーザ様またはお客様にて作成頂くことができます。尚、操作端末の項目情報登録画面上での編集内容を反映するため、置き換え用のメタ情報を埋め込む必要があります。

テンプレート HTML は(管理サーバーのインストールフォルダ)¥DEFFL¥COM¥TEMPLATE¥に、001~020 までのフォルダを作成して、HTML ファイルを配置します。

(管理サーバーのインストールフォルダ) — DEFFL — COM — TEMPLATE

```

├─001—sample01.html
├─002—sample02.html
├  ~
└─020—sample20.html
    
```

※各フォルダへ「DEFAULT\_CHANGE\_FILE\_NAME.INI」を配置ください。

操作端末にて編集するための置換文字列のメタ情報を記述します。

種 別	内 容
① 項目表示文字を設定します。	<p>(prtd: ヘッダー固定) セクション名(?) (.ピリオド固定) キー名(?) で記述します。</p> <p>※(?) は、置換時の操作端末の項目番となります。</p> <p>※項目番号は 0 埋め 2 桁で指定します。</p> <p>(例)</p> <p>1 項目の表示項目 prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM01. DEFAULT_CHANGE_KEY01</p> <p>2 項目の表示項目 prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM02. DEFAULT_CHANGE_KEY02</p> <p>以降 20 件まで登録できます。</p> <p>~</p> <p>prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM20. DEFAULT_CHANGE_KEY20</p>
② データを表示するためのActiveXを登録します。	<pre> &lt;object classid="clsid:DA7A57D5-12C6-49BE-B150-F9D38854AE01" id="NMitemax"&gt; ..... &lt;/object&gt;         </pre>
③ 読み込む項目情報コンテンツ名称を記述します。	<pre> &lt;param name="SpecificFile" value="¥NM¥APPLY¥DSP¥ITEM¥DEFAULT_CHANGE_FILE_NAME.INI"&gt;         </pre> <p>下線部に置換文字列、「DEFAULT_CHANGE_FILE_NAME.INI」を記述します。</p> <p>このタブは、②項の&lt;object ...&gt;.....&lt;/object&gt; タブの中に1つのみ記述してください。</p>
④ データを更新する間隔を設定します。	<pre> &lt;param name="UserItemReloadInterval" value="3"&gt;         </pre> <p>下線部に、1-3600 秒の間で設定します。</p> <p>このタブは、②項の&lt;object ...&gt;.....&lt;/object&gt; タブの中に1つのみ記述してください。</p>

注意！！

- ①②のテンプレート HTML にて置換文字列となるメタ情報文字を別の名称に置き換えることはできません。

## テンプレート HTML のサンプルソース

```

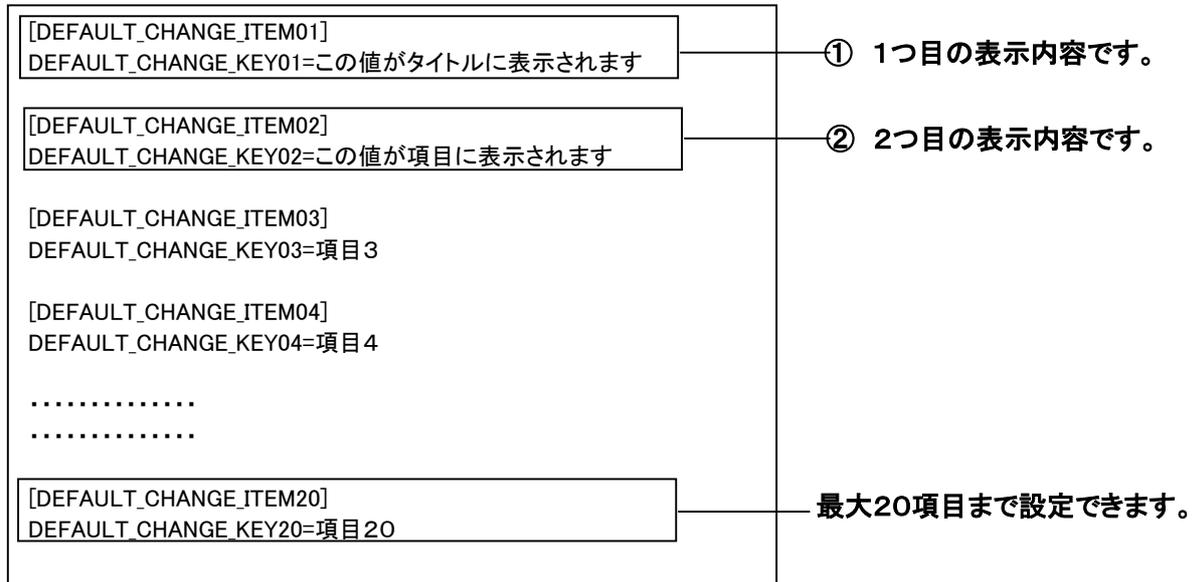
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Language" content="ja">
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=shift_jis">
<title>テンプレートサンプル</title>
</head>
<body>
<p>タイトル: テンプレートのサンプル画面</p>
</br>
<table border="1" cellpadding="0" cellspacing="0" style="border-collapse: collapse" bordercolor="#111111" width="80%"
id="AutoNumber2" height="60">
  <tr>
    <td width="100%" height="30"><p align="center">
      <font size="5">タイトルの名称</font>
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td width="100%" height="60"><p align="center"><font size="7">
      <span id="prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM01.DEFAULT_CHANGE_KEY01">
    </font></td>
  </tr>
</table>
</br>
<table border="1" cellpadding="0" cellspacing="0" style="border-collapse: collapse" bordercolor="#111111" width="80%"
id="AutoNumber1" height="120">
  <tr>
    <td width="12%" height="16" align="center"><font size="5">項目</font></td>
    <td width="38%" height="16" align="center"><font size="5">内容</font></td>
  </tr>
  <tr>
    <td width="12%" height="16" align="center"><font size="5">No 1</font></td>
    <td width="38%" height="16" align="center"><font size="5">
      <span id="prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM02.DEFAULT_CHANGE_KEY02">
    </font>
  </td>
  </tr>
</table>
<object classid="clsid:DA7A57D5-12C6-49BE-B150-F9D38854AE01" id="NMitemax">
  <param name="SpecificFile" value="¥NM¥APPLY¥DSP¥ITEM¥DEFAULT_CHANGE_FILE_NAME.INI">
  <param name="UserItemReloadInterval" value="3">
</object>
</body>
</html>

```

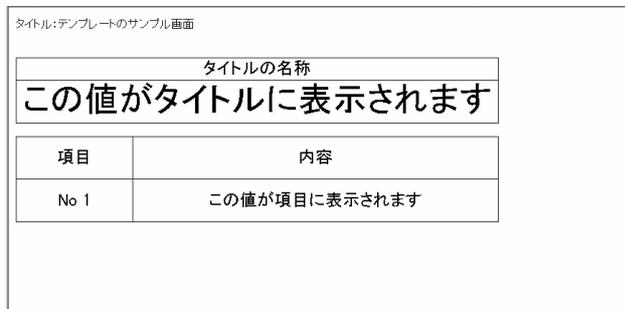
② データを表示するためのモジュールを定義  
 <body>・・・</body>タブ  
 の最後に記述ください

(参考1)

「④ DEFAULT\_CHANGE\_FILE\_NAME.INI」の記述内容の参考です。本ファイルは、操作端末のコンテンツ登録画面で表示されるテンプレートイメージ上で表示項目と埋め込まれた項目場所を判りやすくするためのものですので必須ではありません。



※テンプレート HTML のサンプルソースと、DEFAULT\_CHANGE\_FILE\_NAME.INI を組み合わせることにより、変換される場所が HTML 上の何処に当たるかを判りやすくなります。



(参考2)

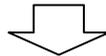
操作端末での編集により、テンプレート HTML のキーが以下のように置換されます。

#### 項目情報登録画面

項目	セクション名	キー名
項目1	item1	key1
項目2	item2	key2
項目3	item3	key3
~		
項目18	item18	key18
項目19	item19	key19
項目20	item20	key20

#### テンプレート HTML に埋め込むキーの設定

```
<html>
<head>
.....
<td width="100%" height="60"><p align="center"><font
size="7">
<span id="prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM01.DEFAULT_C
HANGE_KEY01">
.....
<td width="38%" height="16" align="center"><font size
="5">
<span id="prtd:DEFAULT_CHANGE_ITEM20.DEFAULT_C
HANGE_KEY20"></font>
.....
<param name="SpecificFile" value="¥NM¥APPLY¥DSP¥I
TEM¥DEFAULT_CHANGE_FILE_NAME.INI">
.....
```



```
<html>
<head>
.....
<td width="100%" height="60"><p align="center"><font
size="7">
<span id="prtd:item1.Key1">
.....
<td width="38%" height="16" align="center"><font size
="5">
<span id="prtd:item20.key20"></font>
.....
<param name="SpecificFile" value="¥NM¥APPLY¥DSP¥I
TEM¥rss111.ini">
.....
```

## 5.4 イベント ドリブン機能

予めNMデータゲートウェイ内に制御に関する情報を、イベント定義ファイルに記述します。外部装置は、このイベント定義ファイルに登録した内容で制御を行うように、連携用一時ファイルを作成し指定のフォルダに配置します。NMデータゲートウェイは、連携用一時ファイルのファイル名に記載された、イベント種別から自サーバー内のイベント定義ファイルを参照し、プレーヤー端末の制御を行います。また、ユーザデータをプレーヤー端末へ転送します。

### 5.4.1 イベント ドリブン機能の設定手順について

- STEP 1** イベント定義ファイルを作成します。  
(イベント定義ファイルの詳細は【5.4.2 イベント ドリブン機能に必要な情報について】をご参照ください。)
- STEP 2** 作成したイベント定義ファイルをNMデータゲートウェイの格納先に配置して、マシンを再起動します。
- STEP 3** 連携用一時ファイルを出力するイベント監視用フォルダに登録して、監視状態を有効にします。
- STEP 4** アクセス先情報として登録したイベント監視用フォルダに連携用一時ファイルを出力します。  
(連携用一時ファイルの詳細は【5.4.2 イベント ドリブン機能に必要な情報について】をご参照ください。)

## 5.4.2 イベント ドリブン機能に必要な情報について

### ●連携用一時ファイル

連携用一時ファイルは、外部装置とNMシステムを連携するためのファイルであり、外部装置側上で作成していただく必要があります。連携用一時ファイルは、ファイル命名規約に沿ったファイル名を持つテキスト形式ファイルです。

以下に連携用一時ファイルのフォーマットを説明します。

YYYYMMDDHHMSSnnn\_NNNN.EVT

//NMGWEVTCTL// ←正規のデータであることを意味します。(必須)  
..... ←ユーザデータが記述されている場合、制御と合わせて一般ファイルと同様に転送します。  
(ファイル転送元となるファイル名をフルパスで記述します)

(例)¥¥192.168.1.10¥User¥resource.txt.....NMデータゲートウェイから参照できるパスを設定してください。

### 連携用一時ファイルの命名規約

YYYYMMDDhhmssnnn\_NN...N.EVT

- YYYYMMDD : 連携用一時ファイル作成時の年月日を設定
- hhmss : 連携用一時ファイル作成時の時刻を時分秒で設定
- nnn : 同一日時で発生する場合を考慮し、3桁の連番を設定(000~999番を振る)
- NN...N : イベント種別を表す一意の1-10バイト英数字を設定(大小文字は同一とする)
- .EVT : 連携用一時ファイルを表す拡張子

### 記述例>

20080701093000000\_ch1.EVT

この例では、2008年7月1日9時30分00秒000番目に作成されch1の制御コマンドを実行する連携用一時ファイルであることを意味しています。

### 注意！！

連携用一時ファイルは、NMデータゲートウェイが処理した後削除されます。

また、ファイル名の命名規約やファイルフォーマットが規定に反する場合も同様に削除されます。但し、拡張子がEVTでない場合は、対象外として削除されません。

連携用一時ファイルに読み取り専用の設定がなされている場合、削除処理が行われなため、毎回イベント制御処理が行われることとなりますので、読み取り専用の設定は行わないでください。

連携用一時ファイルに記述できるユーザデータのファイル数の上限は、100件までです。

## ●イベント定義ファイル

イベント定義ファイルは、連携用一時ファイルで指定されたイベント種別と実際にプレーヤー端末に送信する制御コマンドを関連付けるためのテキスト形式の定義ファイルです。  
イベント制御を実行する前に予め作成していただく必要があります。

以下にイベント定義ファイルのフォーマットを説明します。

イベント定義ファイルの格納先 : 管理サーバーソフトのインストールパス¥DEF¥GwEvtDef.ini

記述例>

```
[NN・・・N]
CmdCount =2
Command1 = NM01001,intrdisp -r a -t *,GPST01----0001
Command2 = NM01002,intrdisp -r a -t *,GPST01----0001
[YYYY]
CmdCount =2
Command1 = NM010001, intrdspdel -r a
Command2 = NM010002, intrdspdel -r a
```

イベント定義ファイルフォーマット

- [NN・・・N] : イベント種別を表す一意の番号です。1 - 10 バイト英数字を設定(英字を使用する場合は必ず大文字を指定してください)。
- CmdCount : イベント毎のコマンド数を設定する。
- Command(1～n) : 端末番号, コマンド種別, (コンテンツID)

【補足】 イベントのコマンド種別一覧

項	コマンド	コマンド記述
1.	音量ミュート	lineoutmute 1
2.	音量ミュート解除	lineoutmute 0
3.	PDP 電源 OFF	ddctl2 001 POF
4.	PDP 電源 ON	ddctl2 001 PON
5.	割込み	intrdisp -r a -t *, (コンテンツ ID を付加する )
6.	割込み解除	intrdspdel -r a
7.	チャンネル割込み解除	intrdisp -d a
8.	チャンネル1	changech CH1
9.	チャンネル2	changech CH2
10.	チャンネル3	changech CH3
11.	チャンネル4	changech CH4
12.	チャンネル5	changech CH5
13.	チャンネル6	changech CH6

注意！！

イベント定義ファイルを編集した場合は、必ずサーバーアプリケーションを再起動してください。編集されたイベント定義情報は、再起動後に反映されます。

1つのイベントで記述できるコマンド数の最大は 500 件です。

1つのコマンド行に複数のコマンドを記述することはできません。また、コマの前後に空白を入れないでください。

# 6 トラブルシューティング

本システムで、トラブルになりやすい現象と、その対処方法を示します。ハードウェア異常・ハードウェア設定に関しては、ハードウェア購入先もしくはご契約されているハードウェア保守会社にお問い合わせの上、修理・交換を行ってください。ソフトウェア異常・設定に関しては、まず以下の対策を行ってください。それでも解決しない場合は購入先にお問い合わせください。

No.	現象	原因	対策
1.	SSL 認証ができない。	Web サーバーの認証においては、ベーシック認証のみとなります。	ベーシック認証にてご利用ください。
2.	Web サーバーのデータが毎回取得される。	Web サーバーでの情報更新確認には、HTTP のプロトコルの If-Modified-Since を使用するためこの機能のない Web サーバーでは、常にデータ更新されます	If-Modified-Since 応答が可能な Web サーバーをご利用ください。
3.	フォルダからファイルを取得する際に、フォルダ内のファイルが削除される。	フォルダからファイルを取得する際に、取得したファイルを削除する仕様です。	アクセス先の設定をフォルダ指定からファイル指定に変更し 1 ファイルずつ取得するように変更してください。
4.	毎回多数のファイルがプレーヤー端末へ転送される。	ファイル取り込みがフォルダ(ユーザファイル/イベント)の場合は、フォルダ内に含まれるファイルが不特定多数になるため、ファイル毎の更新日時で監視せず存在するファイルを全て配信し、転送元のソースを削除します。削除できないファイル(ファイル属性が読み取り専用)である場合等、当該ファイルを繰り返し配信します。	転送元のソースを削除できるように設定してください。
5.	NM コンテンツ差し替えで警告が表示される。	差し替えるコンテンツの拡張子が異なる場合には差し替えできません。	NM コンテンツに登録したファイルと同種類の差し替え用コンテンツを指定してください。
6.	追加したプレーヤー端末へコンテンツが配信されない。	アクセス先編集にて、配信先端末を個別に指定した場合、端末登録等で端末が増減しても、個別端末の登録の配信先は増減しません。	個別端末の登録の配信先を指定した場合は、追加した端末を新たに配信先に追加してください。
7.	NMデータゲートウェイの機能でDBからの情報取得に失敗する。	アクセステーブル情報の設定項目でポート番号が正しく設定されていない。	DB サーバー上の設定を確認して、正しいポート番号を設定してください。
		DB 情報設定のカラム名またはキー名が誤っている。(大文字と小文字は区別されます)	カラム名及びキー名をご確認の上、正しく設定してください。
8.	「Failed get file」エラーが発生する。	読み込むファイルが存在しないと取得エラーとして扱います。	正しいファイルのパスを登録してください。
		ファイル共有での接続にて、アクセス先にログインできていない。	ファイル共有の場合は、アクセス先にログインするようにしてください。

9.	アクセステーブル情報でDBへの接続設定が正しいのに、「File read error」エラーが発生する。	設定した検索条件でDBから取得できるレコード数が0件になっている。	設定した検索条件でDBから取得できるレコード数が1件以上になるように、検索条件を再検討してください。
10.	NMデータゲートウェイの機能でRSSからの情報取得に失敗する。	外部サーバー上のRSSが正しく記述されていない。	外部サーバー上のRSSの内容を修正してください。(Internet Explorerで正常に表示されるか、正しい書式で記述されているかを確認してください)
		Internet Explorer上で正常に表示されるが、NMデータゲートウェイの仕様上の制約に沿っていない。	NMデータゲートウェイで利用可能な用に調整してください。
11.	アクセステーブル情報の登録でRSS/XMLからテロップ変換を登録する際に登録ができない。	変換対象に指定したテロップコンテンツが、配信先に指定している「ユーザ」「グループ」「端末」に対して配信できない。	変換対象に指定したコンテンツが配信可能な配信先のみを指定してください。
12.	「Failed convert file」エラーが発生する。	アクセス先のファイルフォーマットに異常があることが考えられます。	RSSの場合は、Internet Explorerで正常に表示されるか、正しい書式で記述されているかを確認してください。また、障害は改善しない場合は、外部装置の管理者にまた、情報の提供者に問合せしてください。
13.	コンテンツ差し替え、またはファイル転送の際に転送処理に失敗する。	転送対象のファイルサイズが大きいため、処理中にタイムアウトしています。	アクセス先の登録で、「タイムアウト」の値を長くして調整してください。
14.	既に削除したNMコンテンツと同じタイトルで登録しようとした際に、エラーダイアログが表示されて登録できない。	コンテンツ登録画面上は削除されていますが、システム上で管理情報が残っているため。	操作端末から、コンテンツ登録画面の[編集]-[完全削除]を実行して該当のコンテンツ情報を完全に削除してください。
15.	大きいファイルの転送を繰り返すと、ディスクの空き容量が少なくなる。	NMデータゲートウェイでは、転送するファイルの実体を含め毎回取得したファイルをログとして記録します。	ログは7日間で削除されます。ディスクの容量は、「ファイル容量×1日の転送回数×7日分」で計算した値より大きいものをご用意ください。また、SVR設定ツールにて、保管するログの期間を変更し容量を減らすことができます。

---

■当社製品のご購入・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

・フリーダイヤル **0120-878-410**

・受付：9時～17時30分(土・日・祝祭日は受付のみ)

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

#### ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくための、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

## パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

© Panasonic System Networks Co., Ltd. 2010

V3.00R02